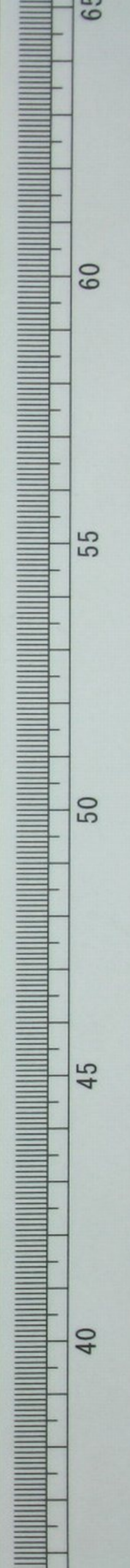


新撰雜歌  
 官歌  
 一

別置

6多7  
 444  
 /





宮形 門形  
堂形 塔形  
繪様

# 本暮氏畫圖

# 大工新撰雛形全部冊

茲編者匠人の道出たる楷榑と成りて人中本暮氏  
心力を以て専ら且勲書に編み成りて補ひて一道の繩  
墨成る所を以て請受て梓とて早ぬ千鐘茶椀

新撰大工雛形序

瓦ガ 千ヤウ コウ シヨウ  
家 釘工 匠 乃 道 也

神武天皇前倭檀原の地以てい

忌部の忌斧忌鉋と以て帝宅を強治

大匠を規摹玉い多。宮社殿階四阿

室舎以て是上棟手斧堅好始なり。





来より人皇三十三代 推古帝之能君

上官太子百福園より後之職司と云く。

寺院樓基廊房堂塔閣庫門戸塙壁

聖堂の松樹と教習りし後規程

準繩毫厘と不誤如くなる異域と云く。

其先哲ありて難取等の明細 形書

救く者として工重に便するのを云く。実の

儀らるる。予は道以業と云はると云く。其

何素より頻ふ。然るに此は元来甲斐意者

おぼくは。遠の安んじ。黙して云く。

強ぬ。此は耳眼を遠くする身は。家おき

事。此は心。此は心。此は心。育人者

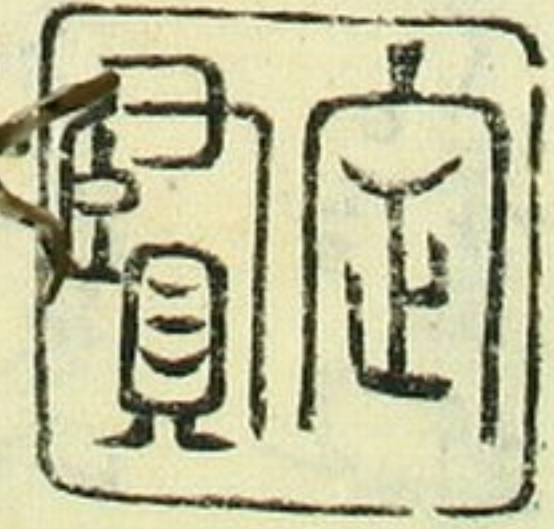


靴の踏<sup>タト</sup>き<sup>ヘ</sup>踏<sup>ヒ</sup>く<sup>ヒ</sup>一部を踏<sup>フ</sup>み<sup>ス</sup>踏<sup>フ</sup>み<sup>ス</sup>  
名匠<sup>ナウ</sup>先<sup>グ</sup>匠<sup>フ</sup>が不<sup>フ</sup>審<sup>タウ</sup>の<sup>ア</sup>誤<sup>カ</sup>り<sup>リ</sup>正<sup>タ</sup>す<sup>ル</sup>が<sup>ク</sup>少<sup>ク</sup>く  
蒙<sup>モウ</sup>工<sup>コウ</sup>諸<sup>シヨ</sup>一<sup>ニ</sup>体<sup>ニ</sup>なる<sup>ル</sup>歟

新撰八龍集家未秋吉名

仁和賤工

本著者甚七



新撰工雜形卷一目錄

祚樂所

教米拙作

春日作一間社

世世拙作

一間社古社作

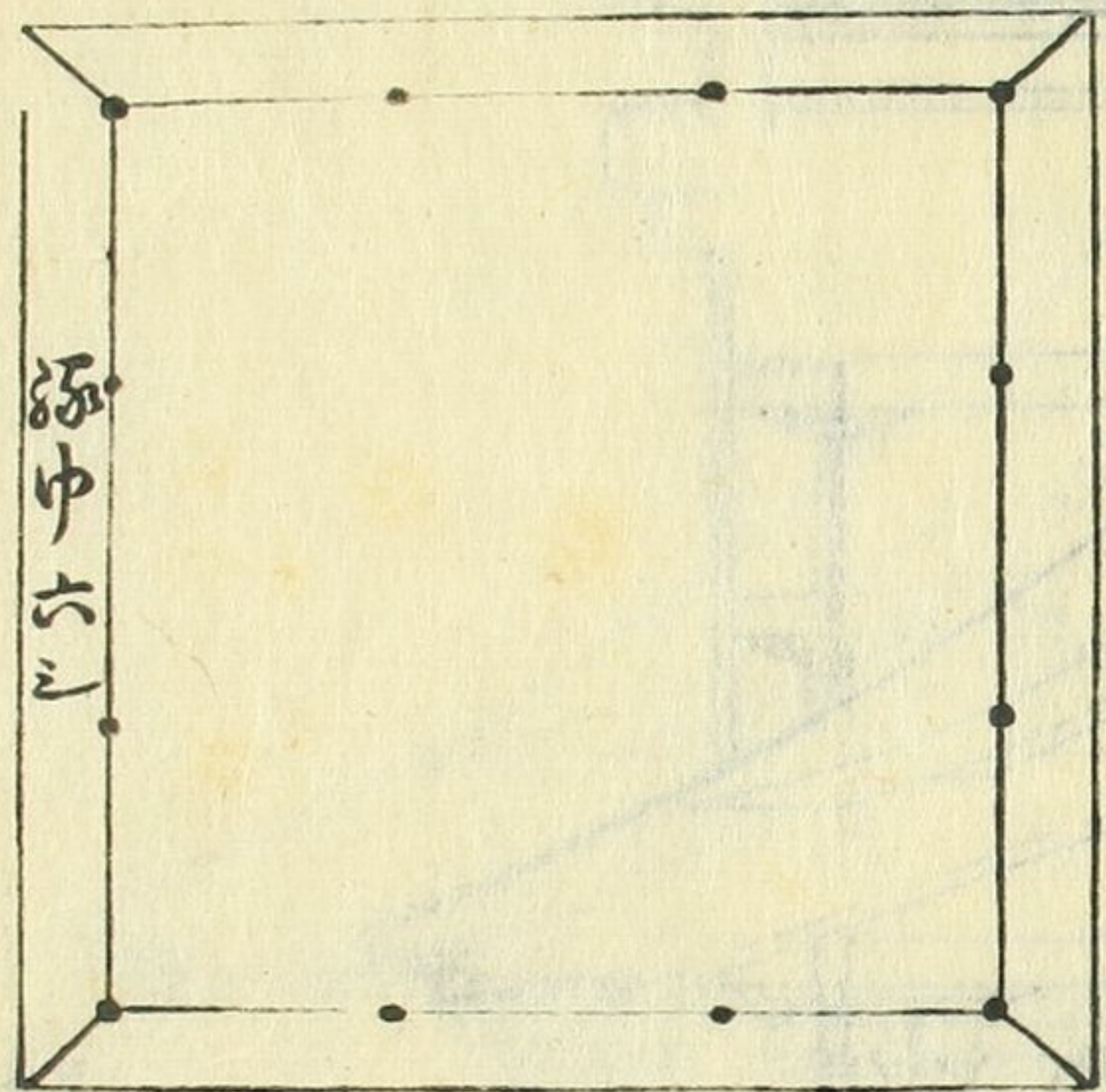
古三間社

祚明拜殿英地



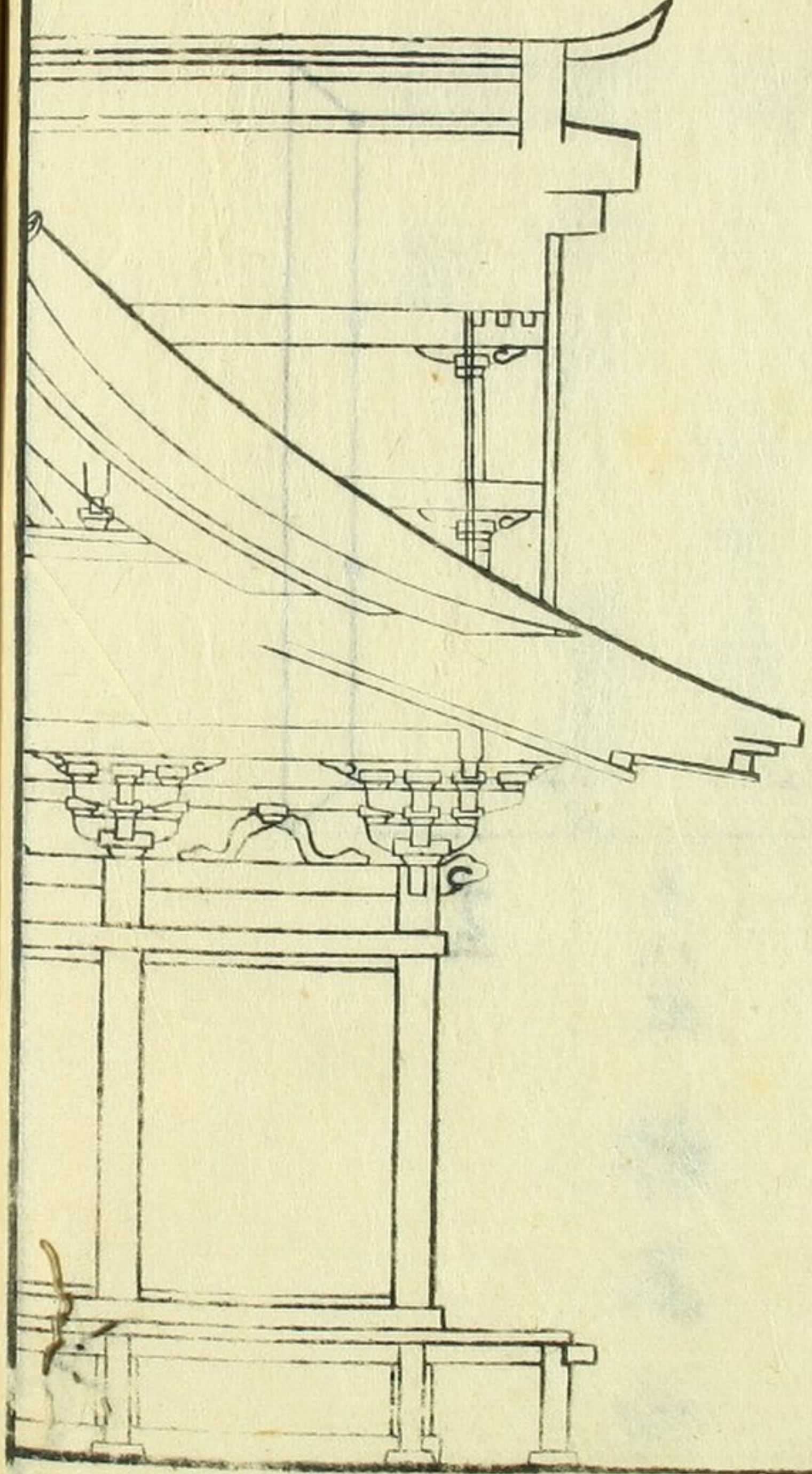
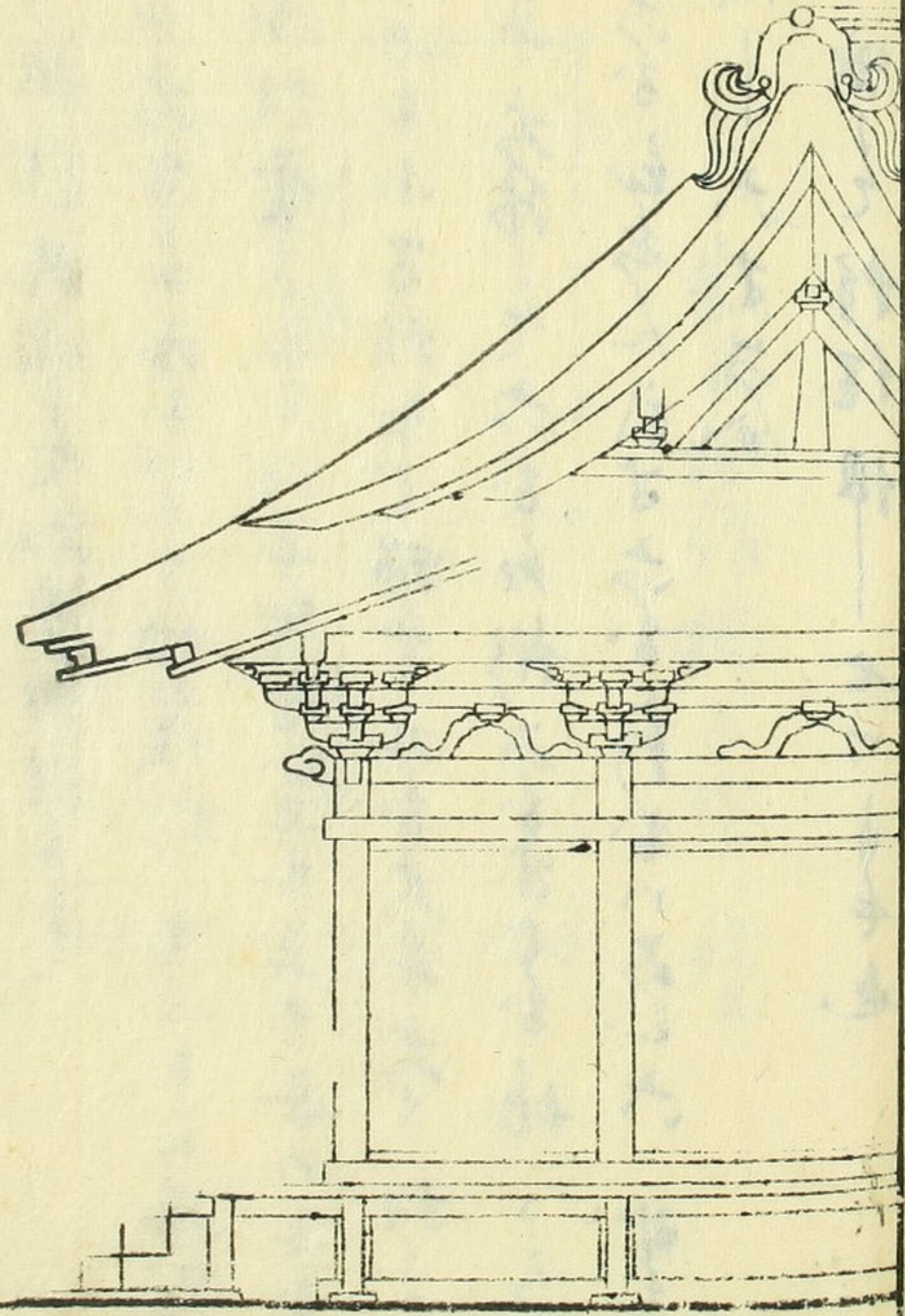
同外宗 平妻共  
 同内宗  
 社的足下之間社 平妻  
 神的一間宮修  
 七面作 平妻在  
 社與

水



十二  
 十八枝 社系新  
 十二





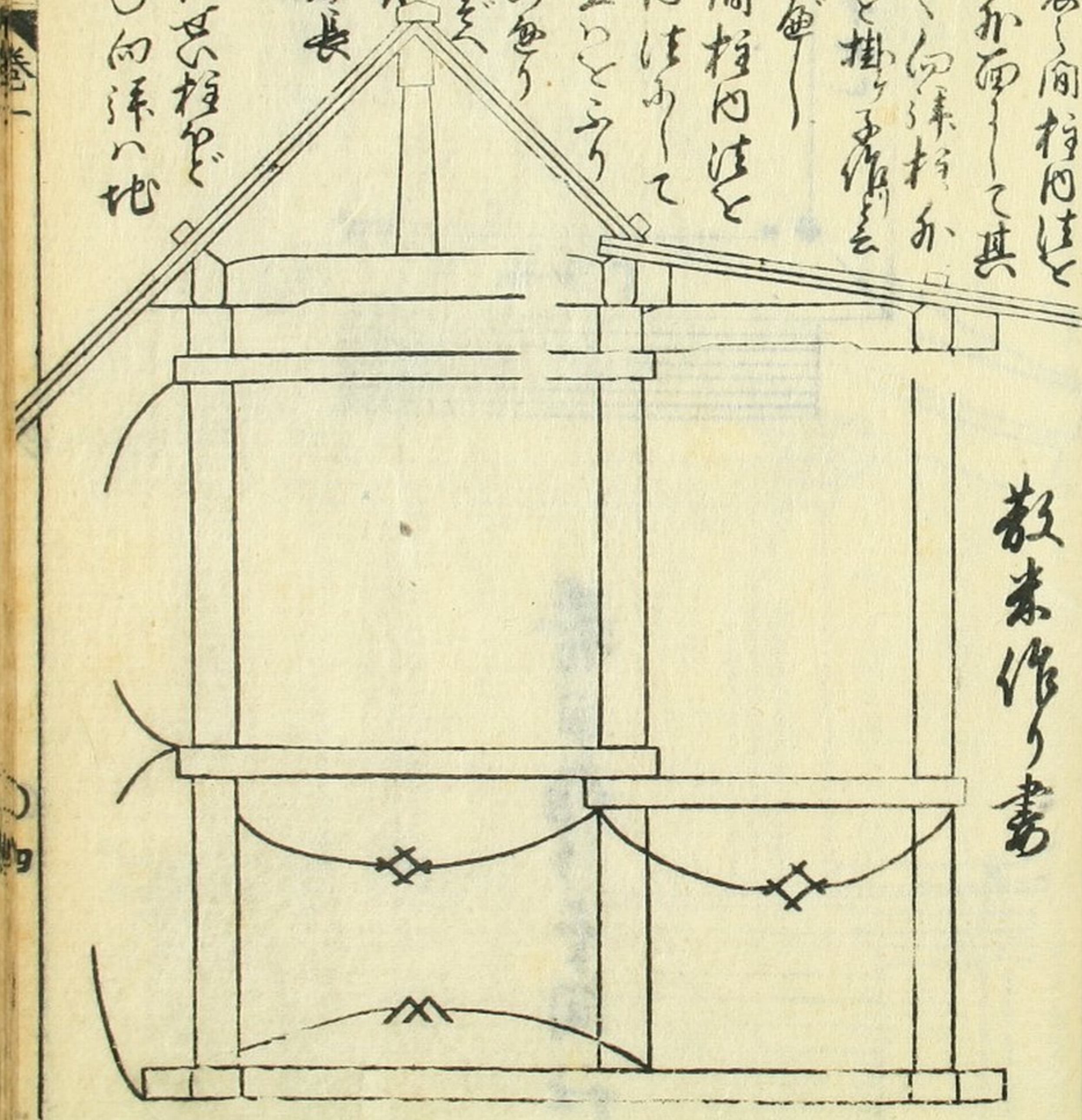
补系新



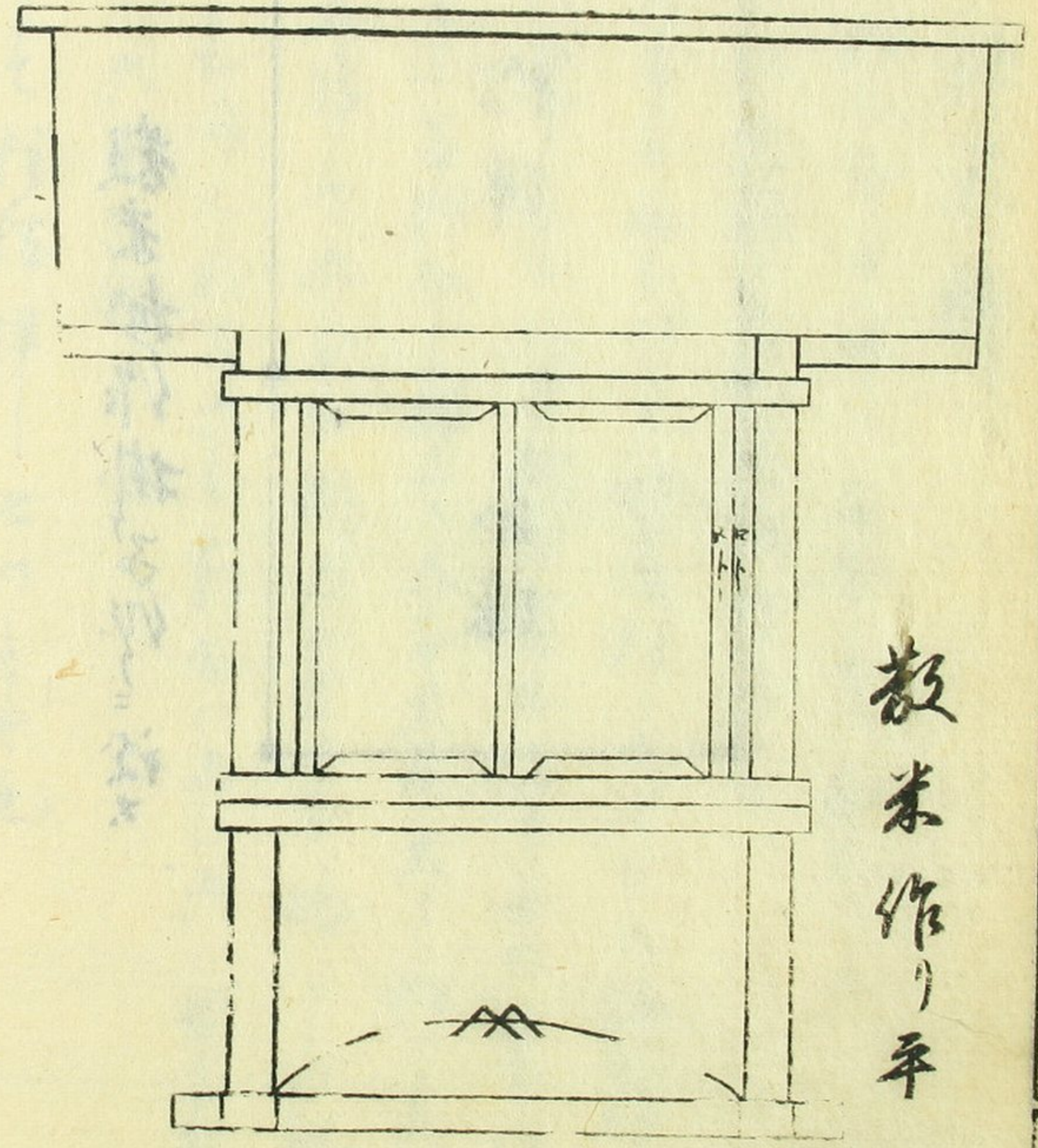




一 間口の指の表へ向柱の法と  
 法をたれり柱の内へして其  
 内よりとろく向柱の内  
 へして定め是と掛り  
 丸合紋を合毎へ  
 一 三斗の素へ向柱の法と  
 ろく此押の法とて  
 繩をびし上りとろり  
 向柱の内へす  
 一 向柱の内へす  
 向柱の内へす  
 地へ其の分長  
 押あかぬ  
 一 柳下の柱の内へ其の法と  
 一 大板を配かき向柱の内  
 割のなり

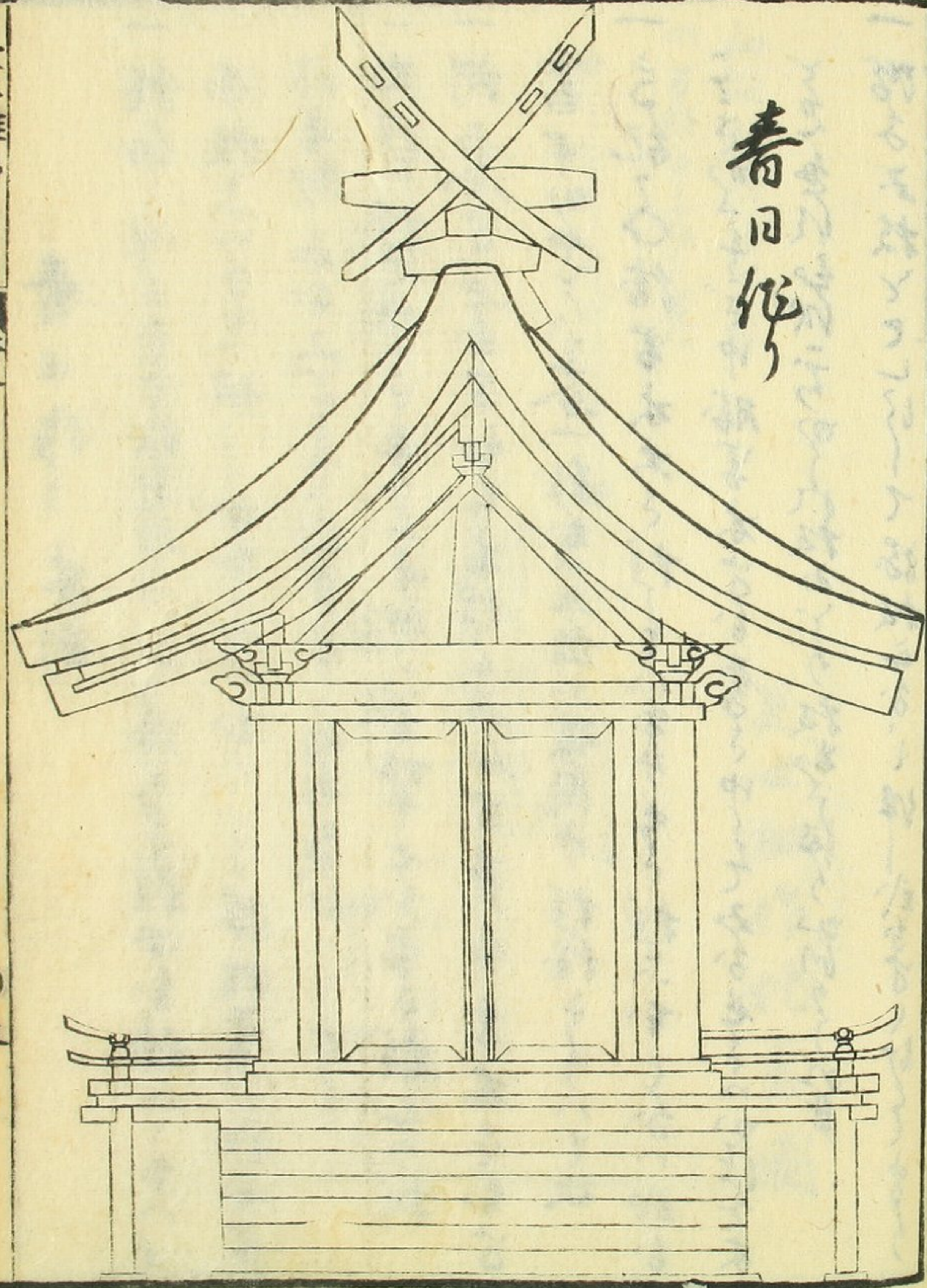


散末作り書

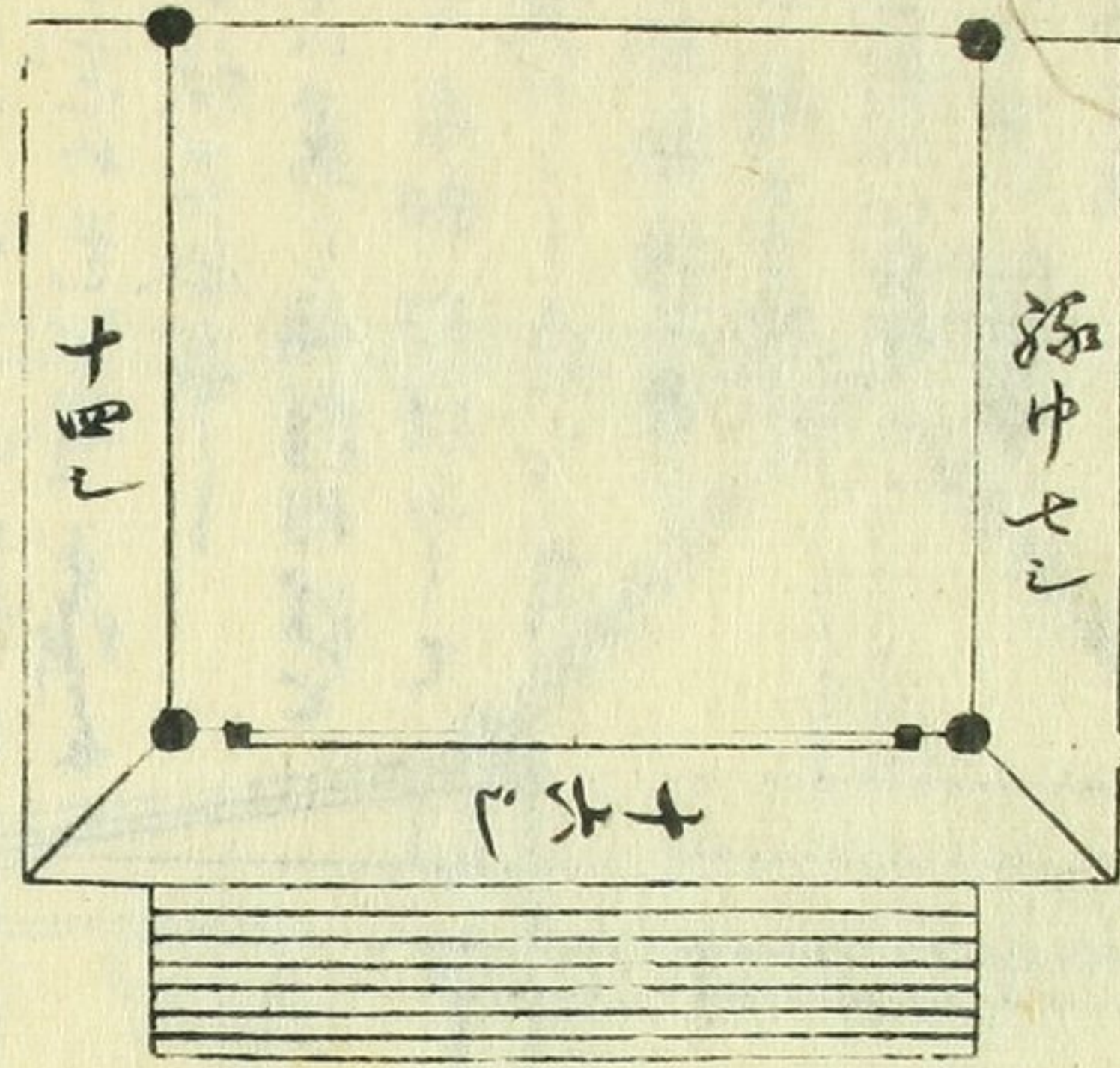


散末作り平





春日作

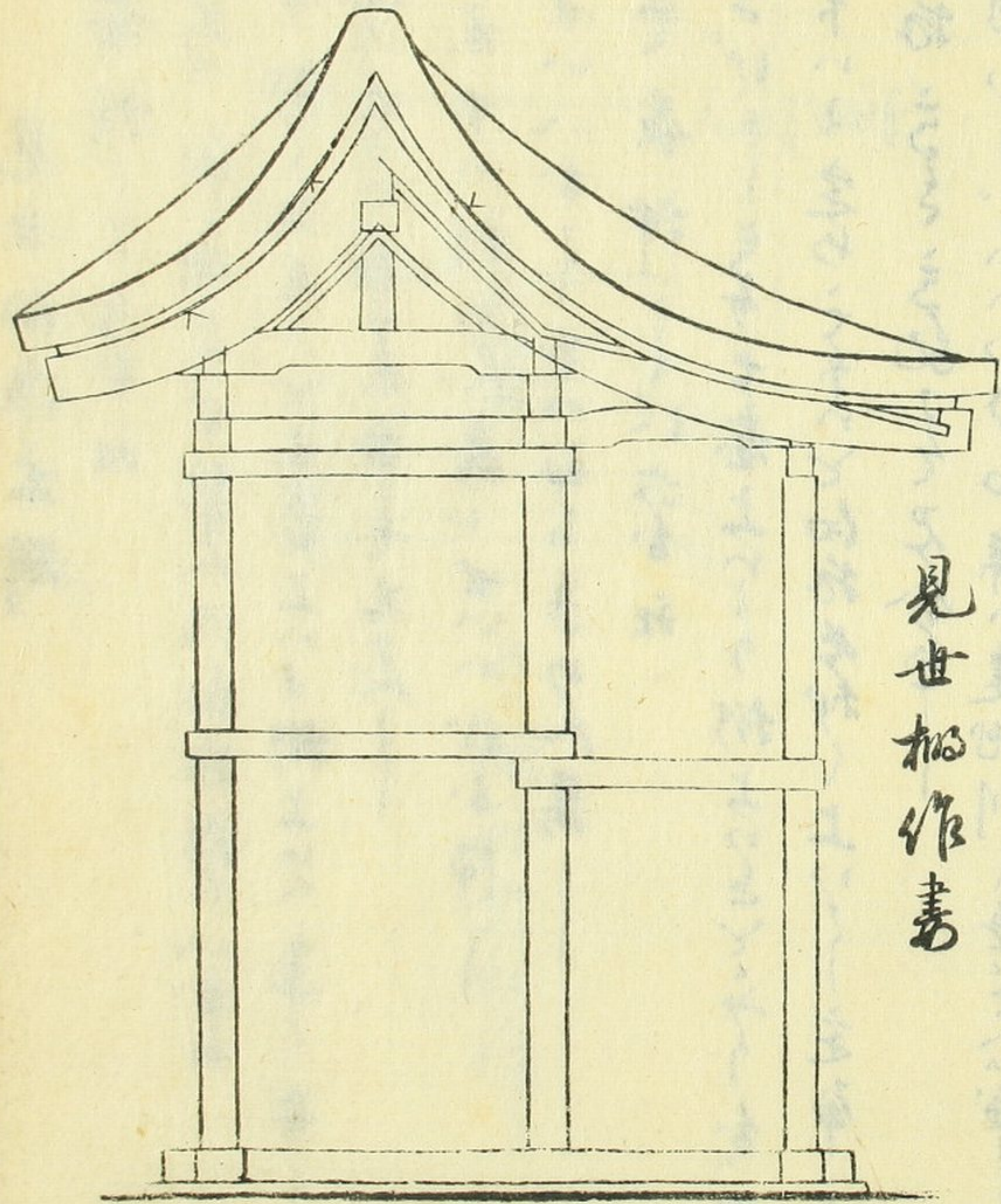


春日作の寺同社

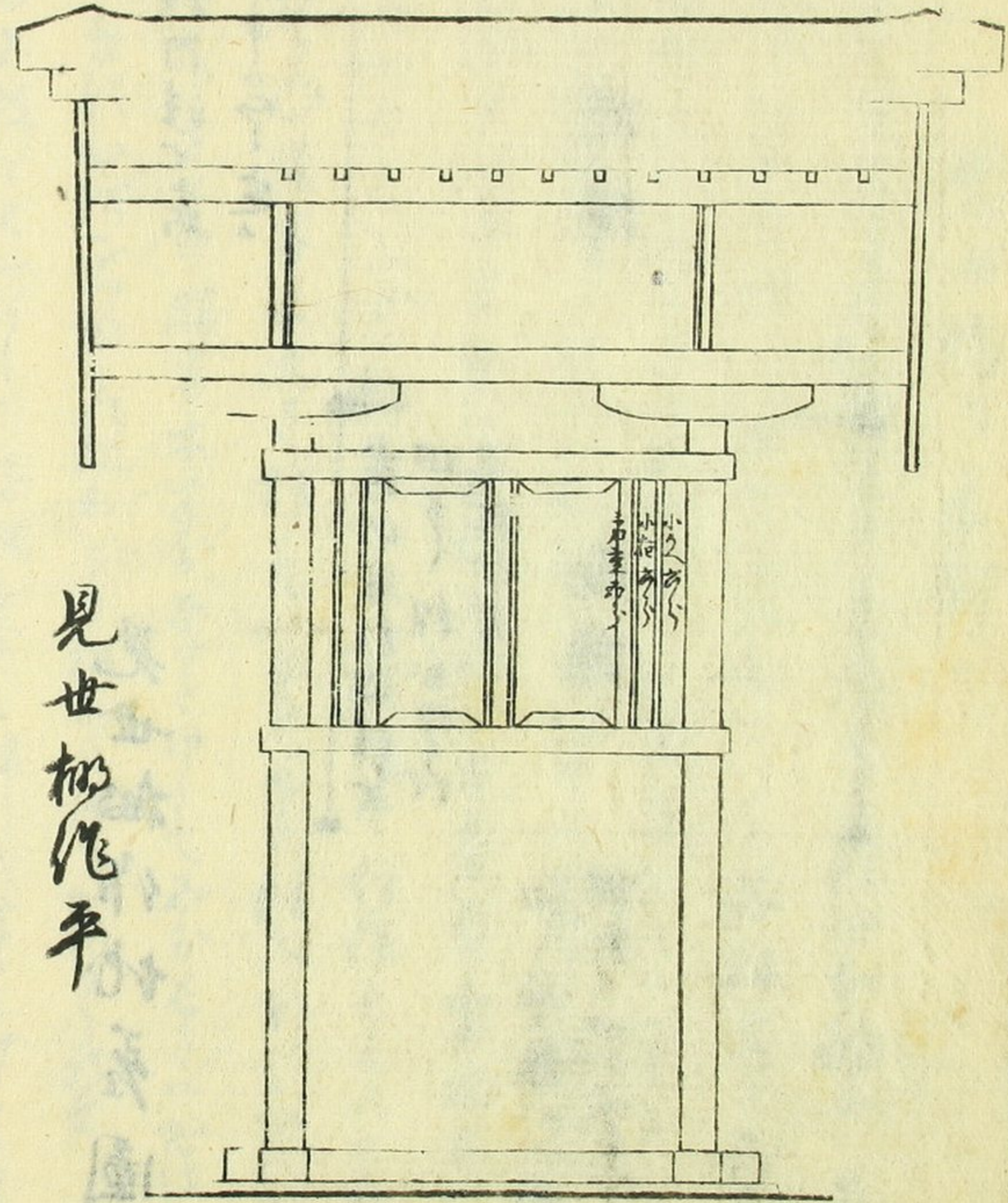








見世松作妻

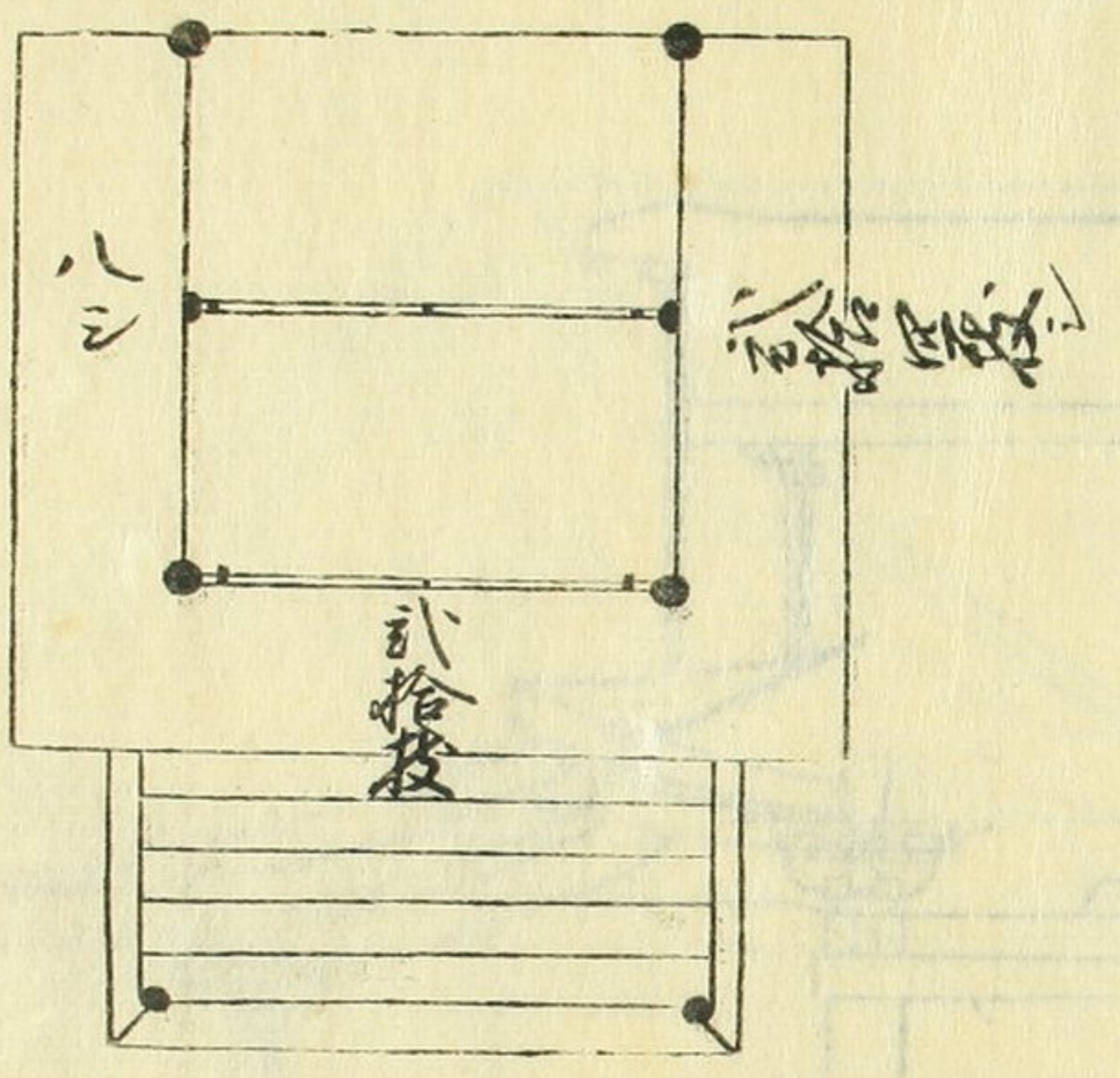


見世松作平



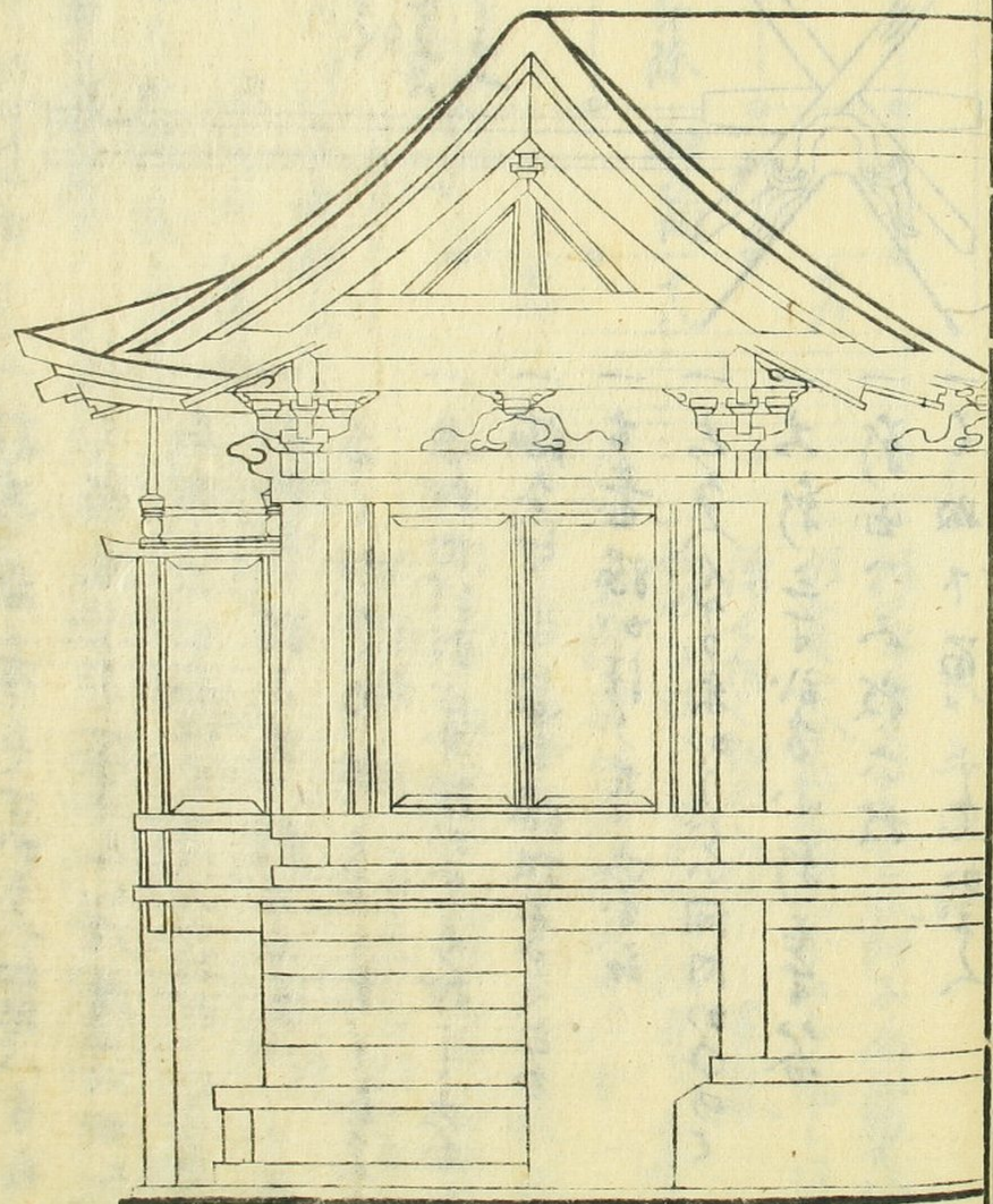
見世松作本割

- 一 出登柱とて九分五
- 一 柱太半 向く間とすのど人日向物柱の八分五
- 一 高半 柱く懸とて出登上の八分五 柱上の高半
- 一 杉の太さの八分五 杉の太さの七分五
- 一 財木下の柱めん落のせい八分五
- 一 杉のせい八分五 下のせらきめん落
- 一 江戸長押とて六分五
- 一 腰さげとて高半 杉上の高半とて高半
- 一 押下りの定めとて高半とて高半 杉上の高半
- 一 向物とて高半とて高半
- 一 間内りく高半の向物の建地割とて高半

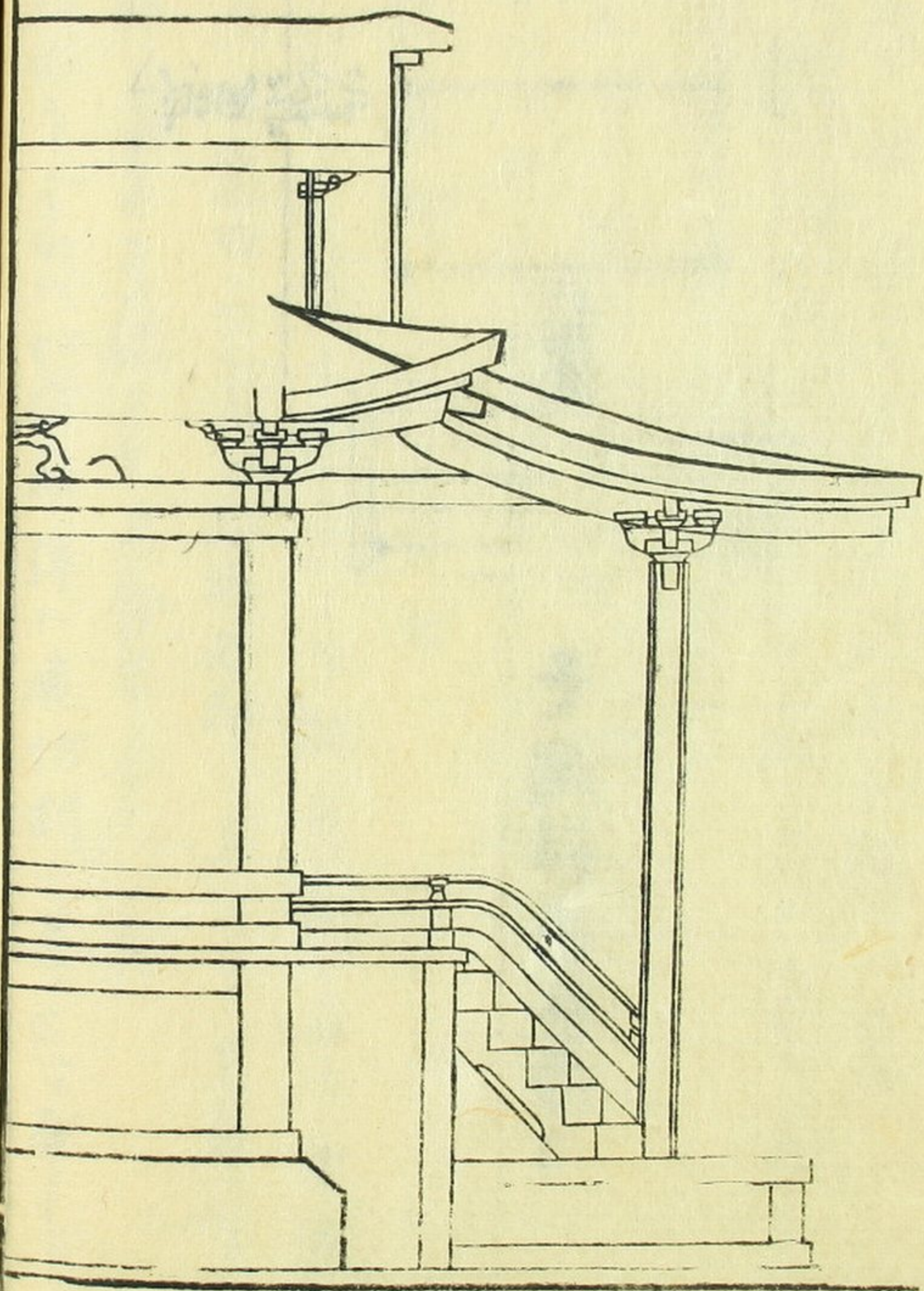


見世松作本割





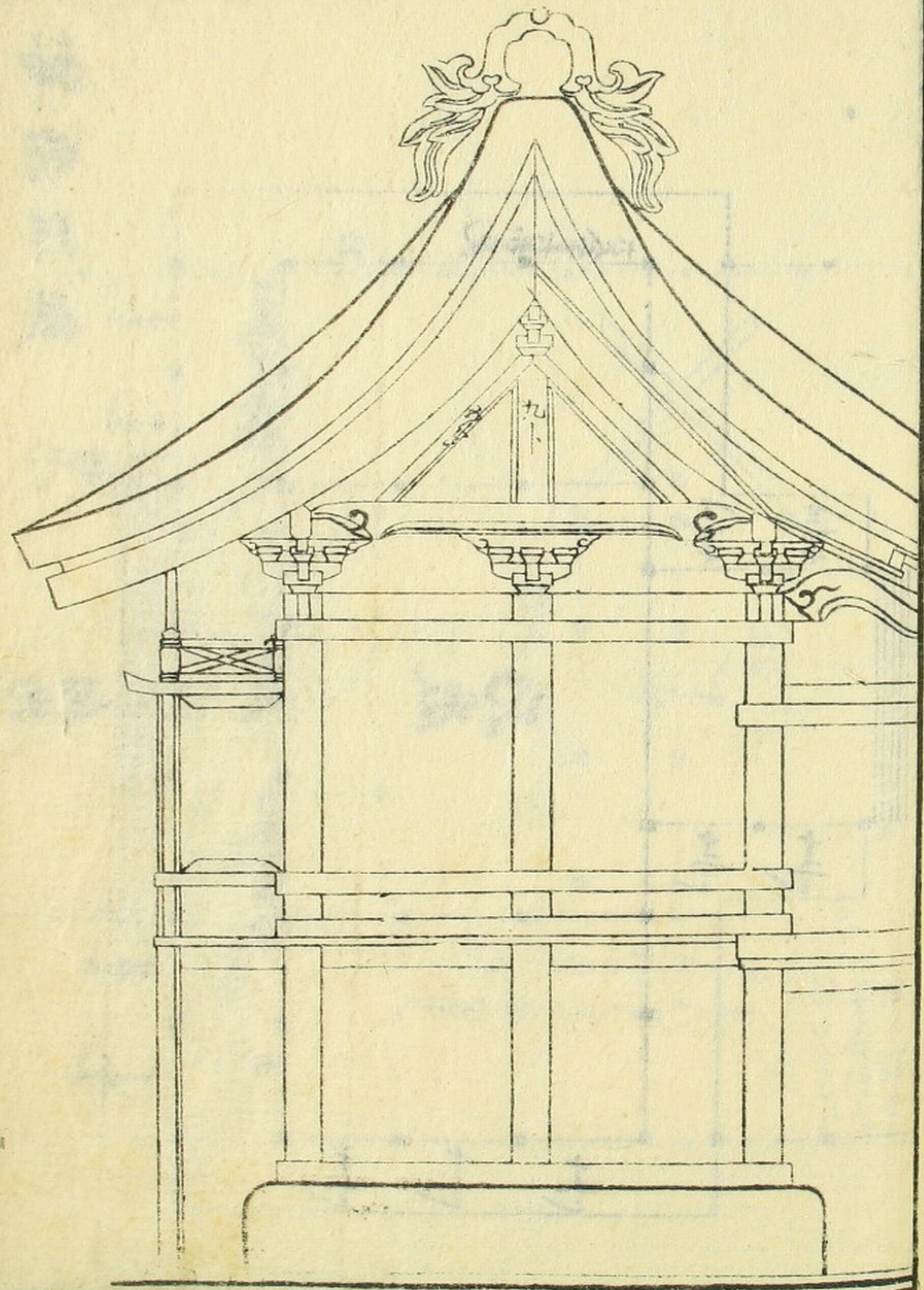
壹間社大社造



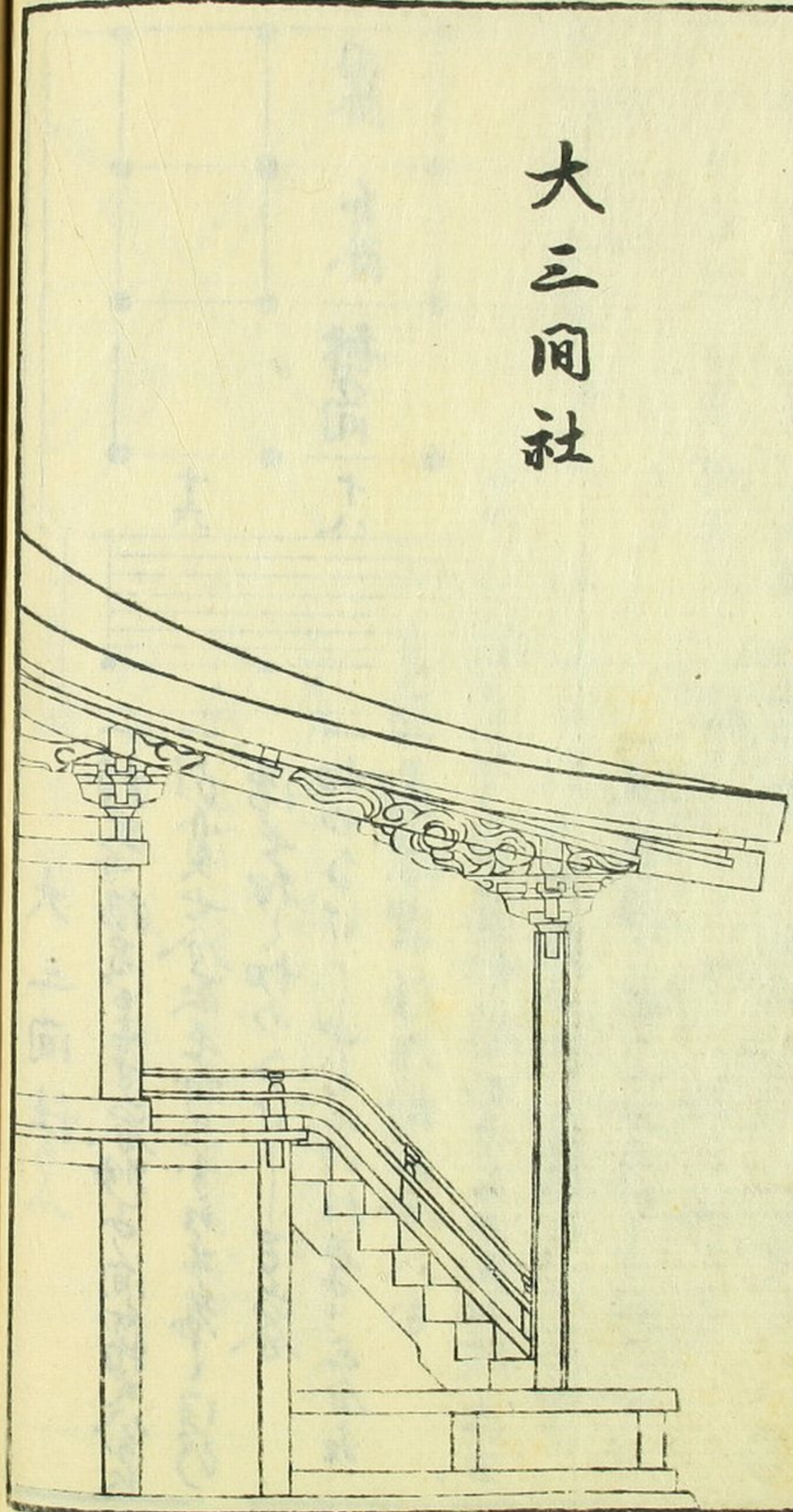






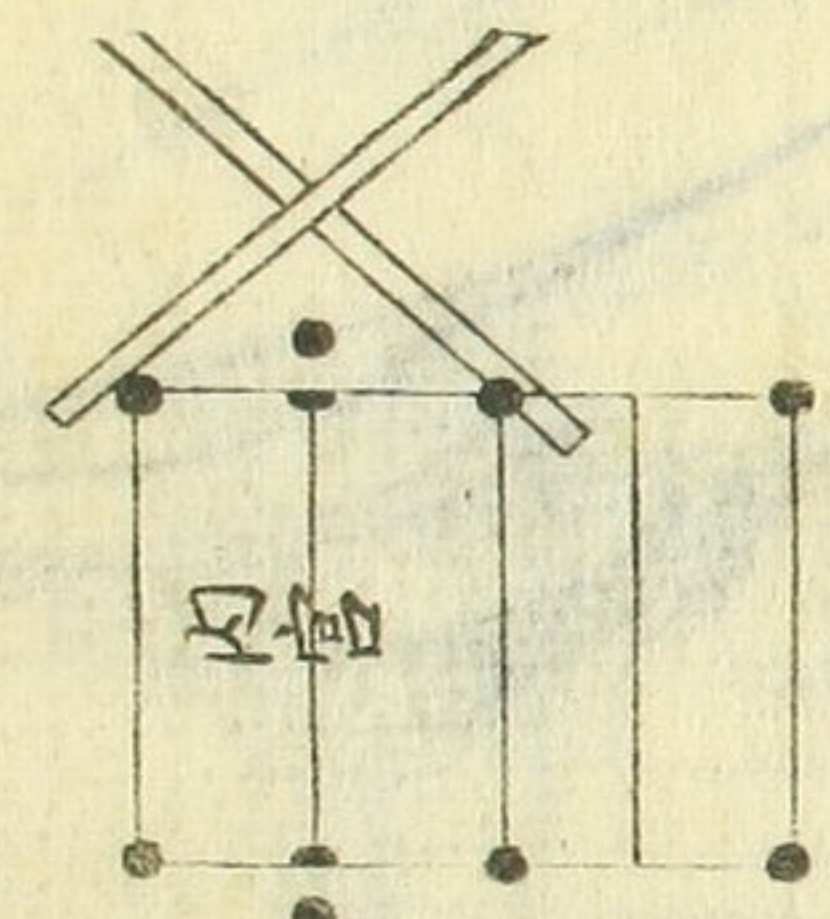


大三間社



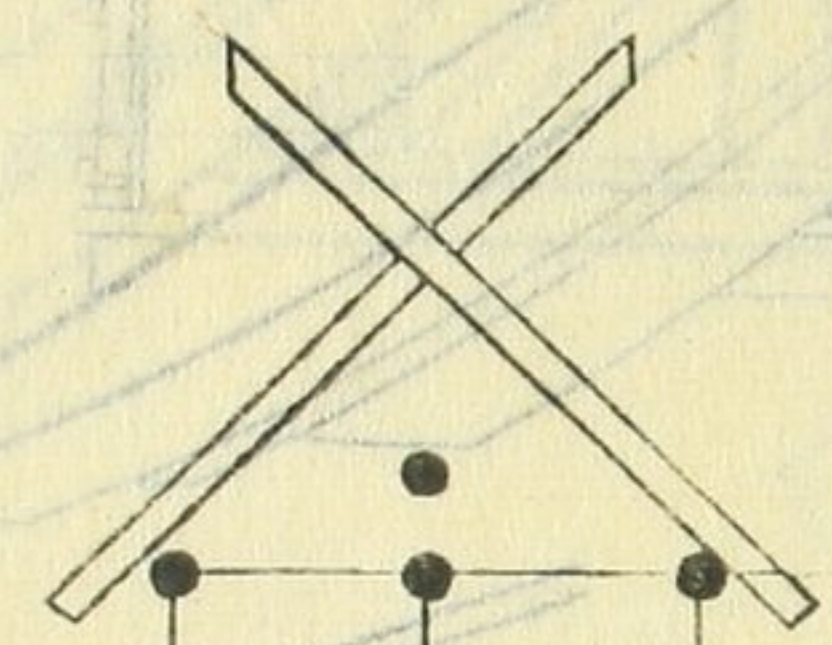
一 後軒出ハ大式柱ト云記ニ割側軒ハ大式ニト也  
 一 白拜軒五寸六分  
 一 本家間ハ大軒五寸七分ニ守即也白地式ニ也  
 一 同玉多ク人式寸式也





早細

妻之間表板の法  
燕外法之定



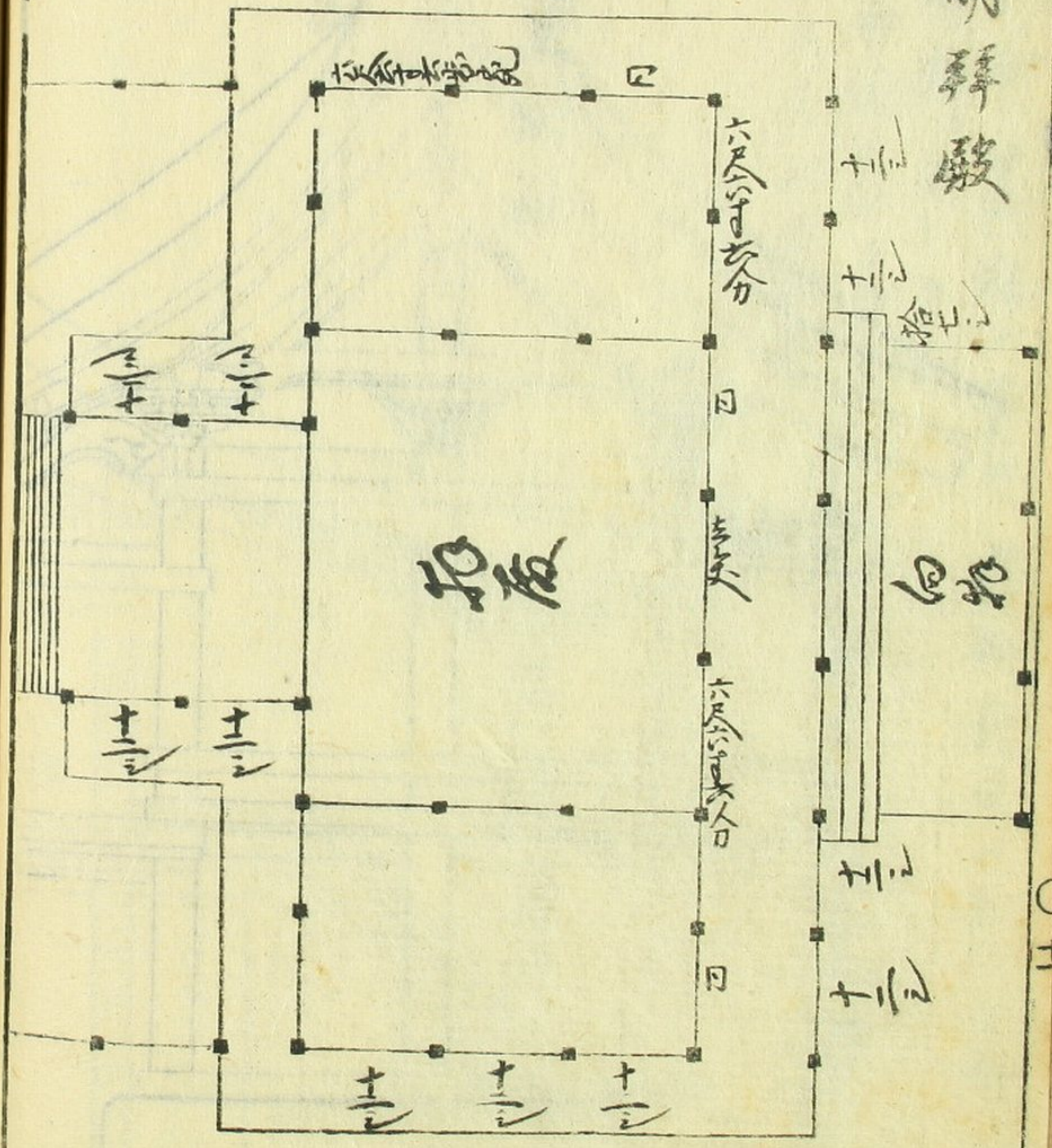
洋版十二之間

板切戸

大正維新の建築  
妻之間の表板の法

十二  
但之縁中  
茅葺法  
短中法

神明拜殿



六尺寸五分

目

目

六尺寸五分

目

目取

十二

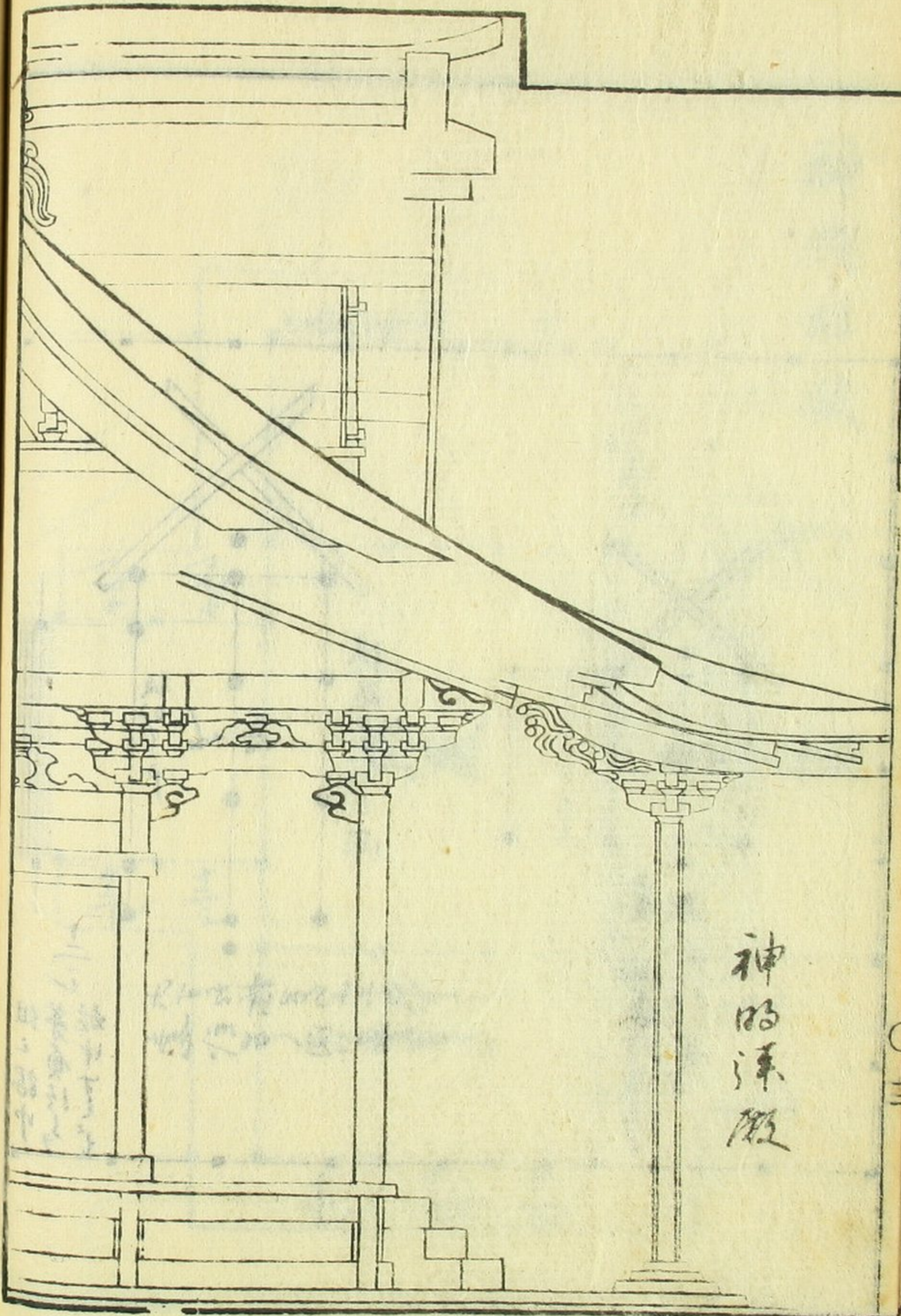
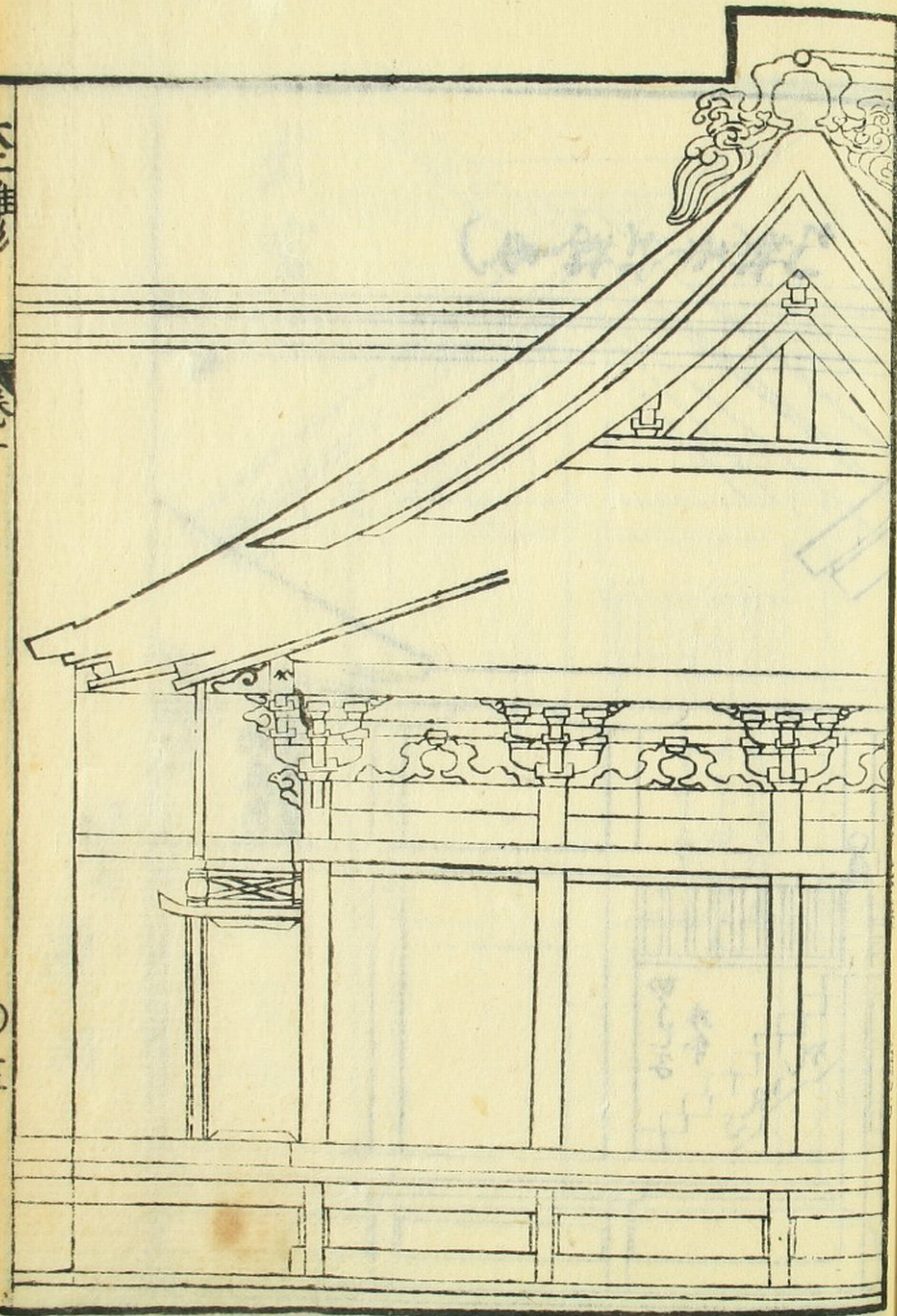
十二

十二 十二 十二

十二 十二

十二 十二

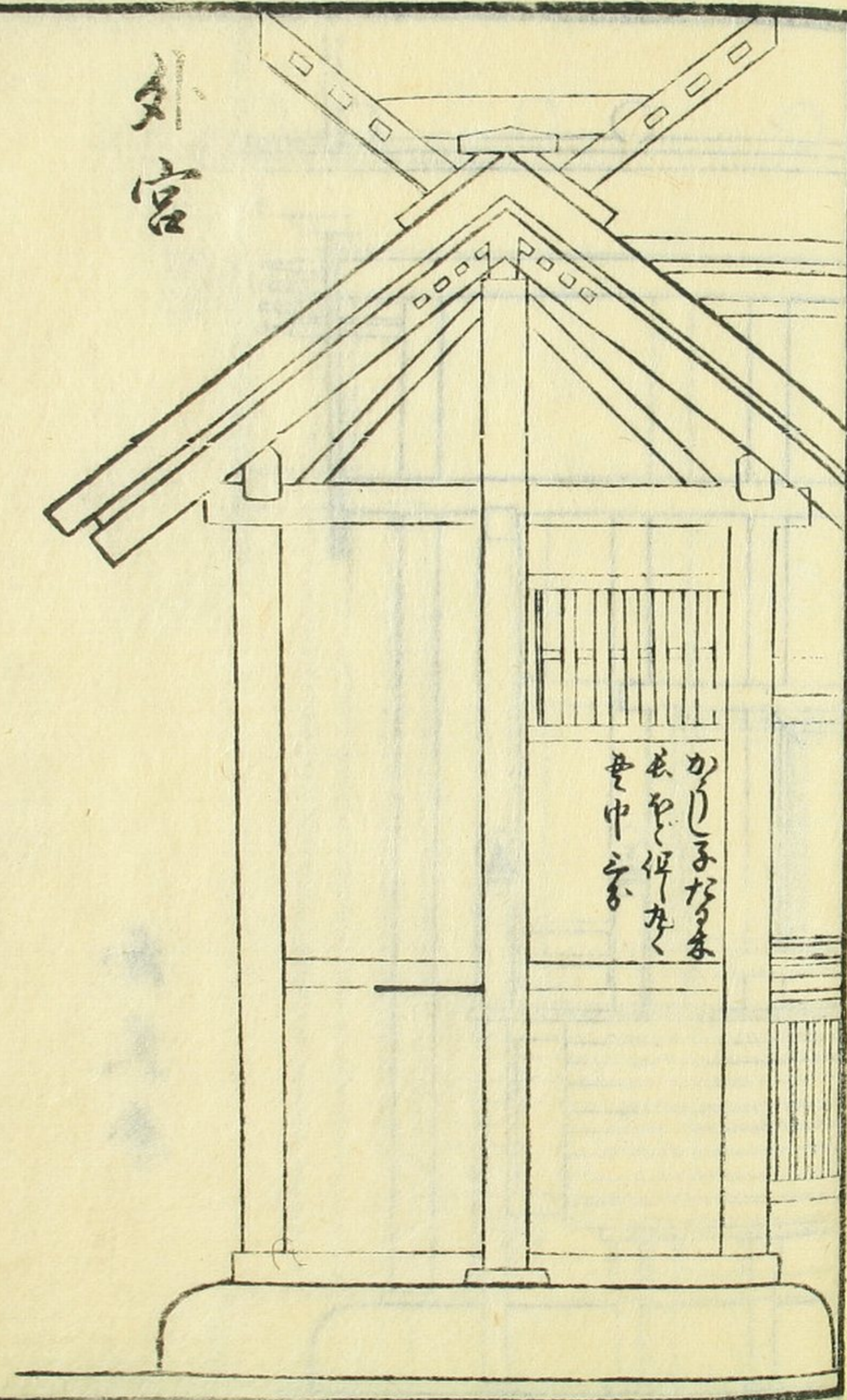




神明涼殿



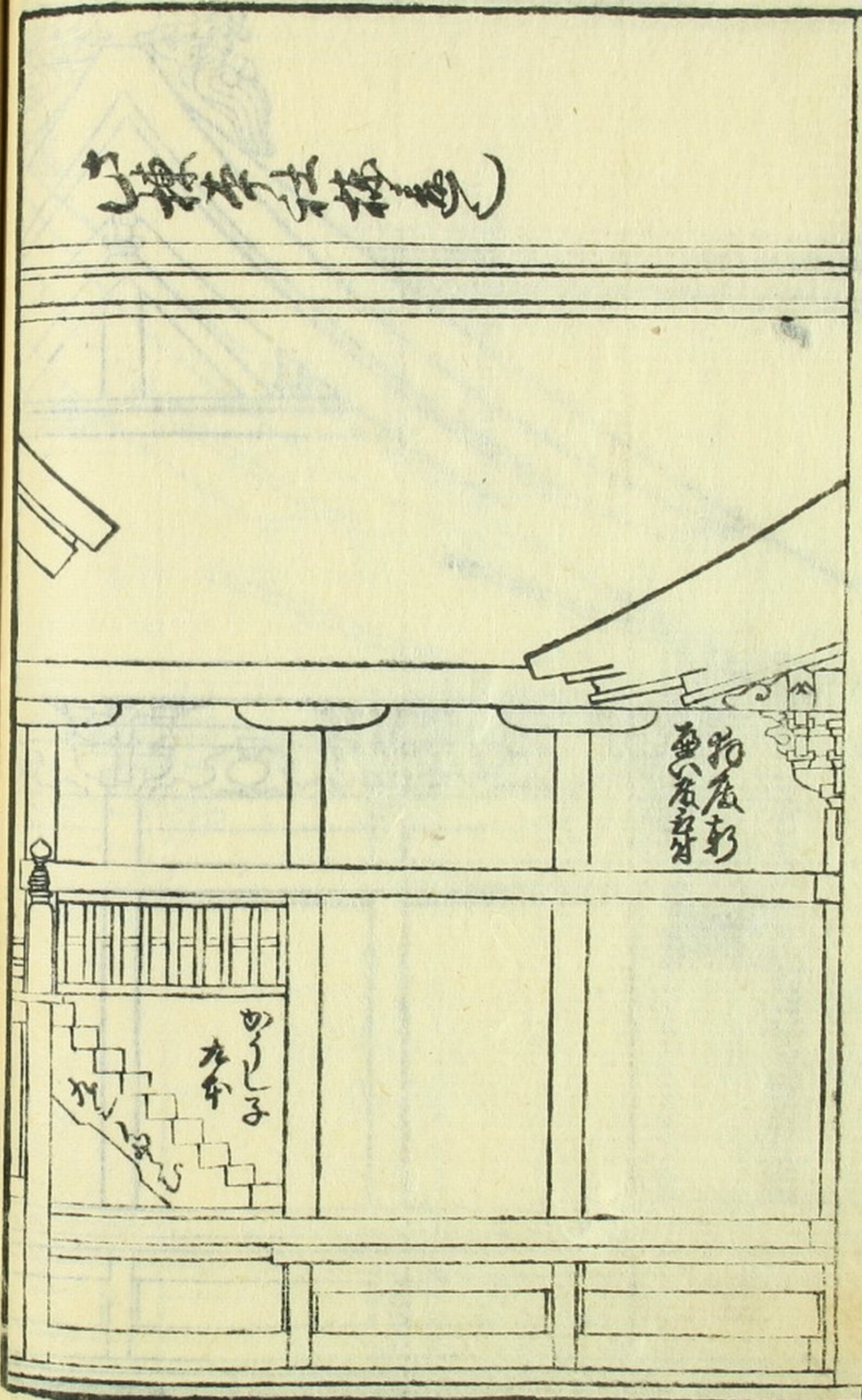
外宮  
石の間



外宮

かり子たき  
長を伴  
其中家

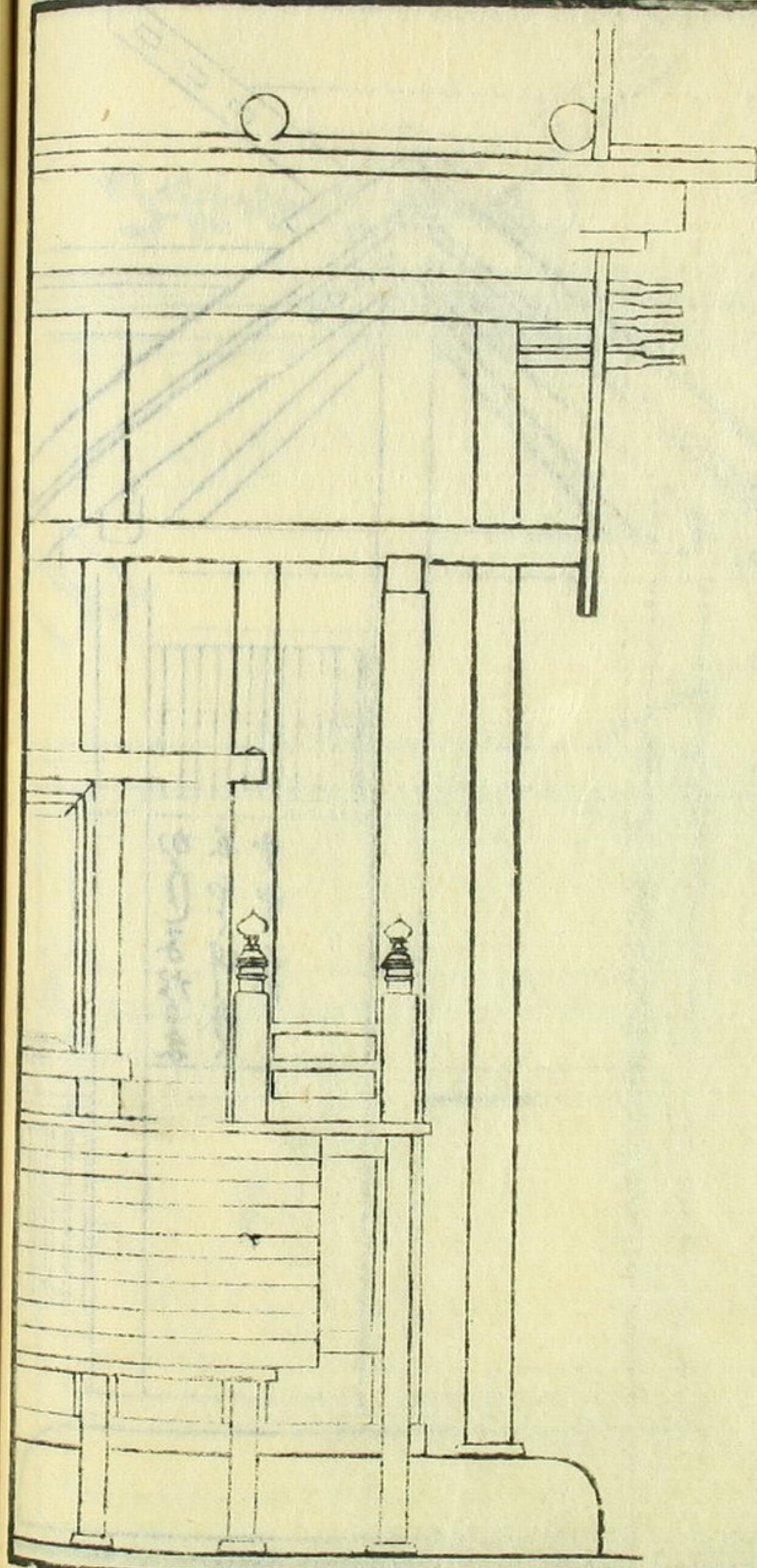
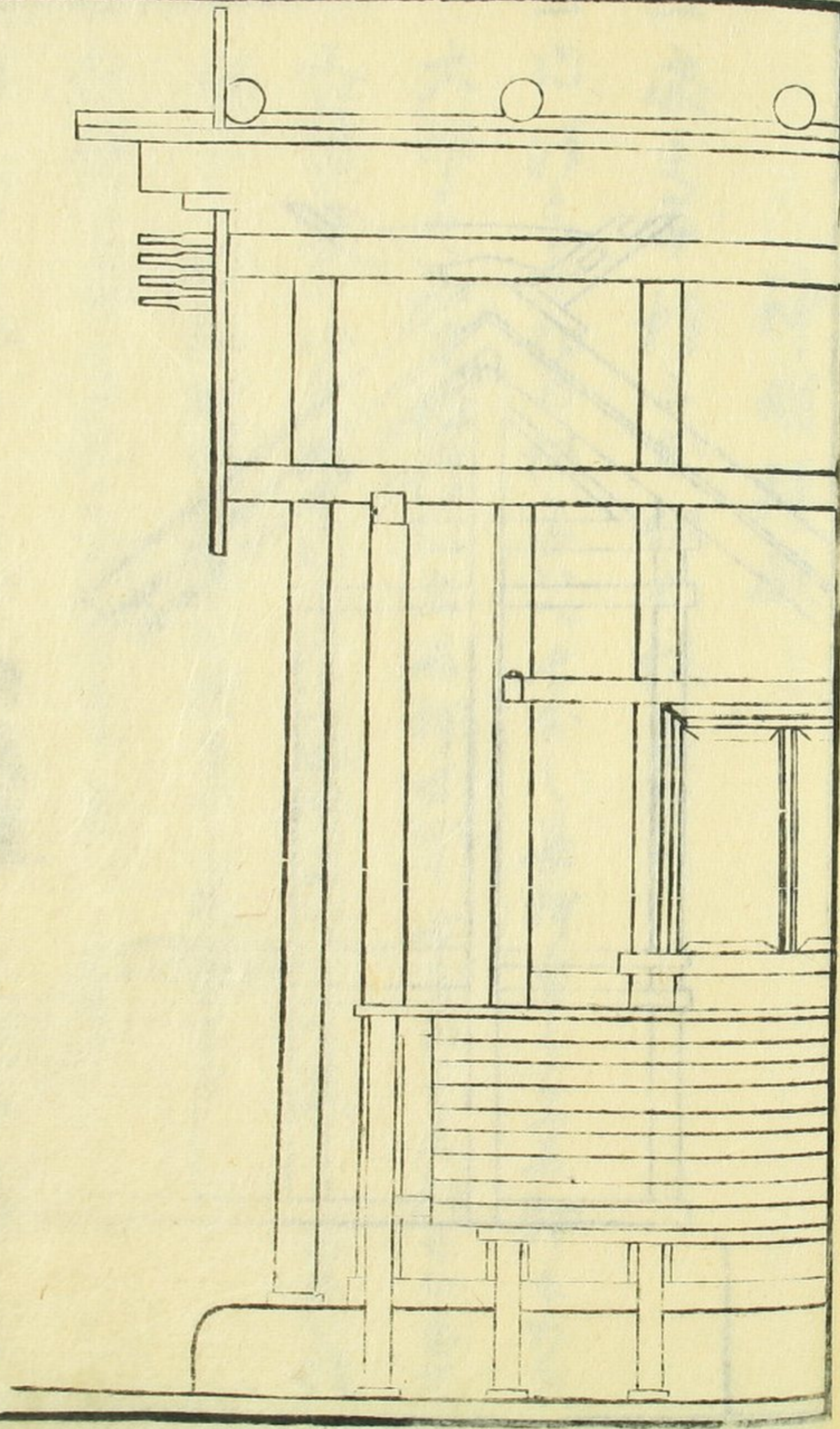
内宮(本殿)



物置  
無名

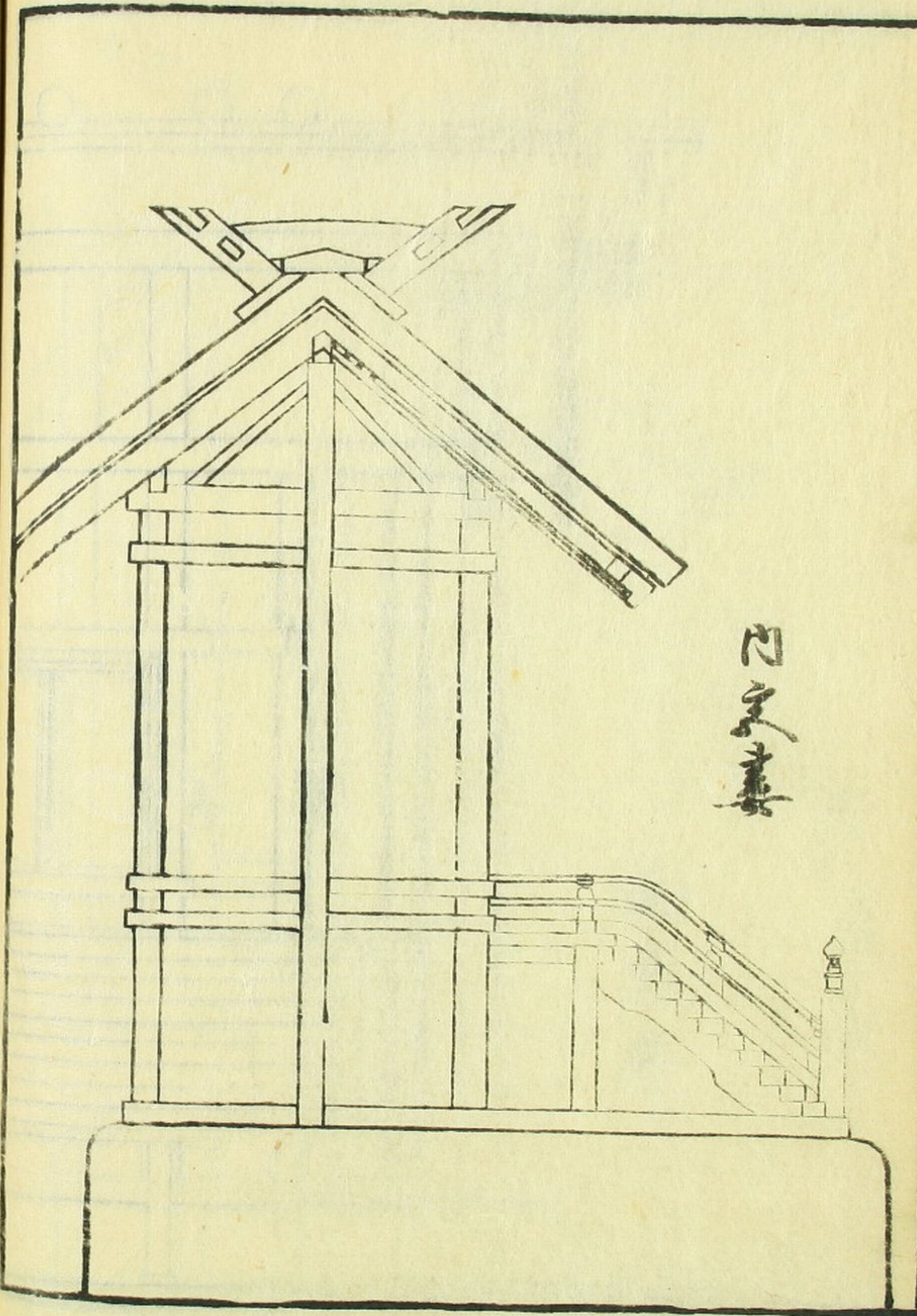
かり子  
たき





外文平





巳亥葺

神明拜殿

一 棟より切板の切板の上  
 一 内法より切板の上より七分長押より上長押より  
 大間より内法の上長押より七分長押より上長押より  
 又内法より内法より上長押より上長押より  
 一 向拜より切板より上長押より上長押より  
 一 柱より内法より上長押より上長押より  
 一 割板より内法より上長押より上長押より



一 六年八月廿七日 板入のりして

一 芳原六分板 板入のりして

一 すうほうの板 板入のりして

一 縁七分板 板入のりして

一 和紙のり 板入のりして

一 板入のり 板入のりして

一 大板のり 板入のりして

一 破風中板 板入のりして

一 中板のり 板入のりして

一 ちさいのり 板入のりして

一 和紙のり 板入のりして

一 ちさいのり 板入のりして

一 和紙のり 板入のりして

一 ちさいのり 板入のりして

一 和紙のり 板入のりして

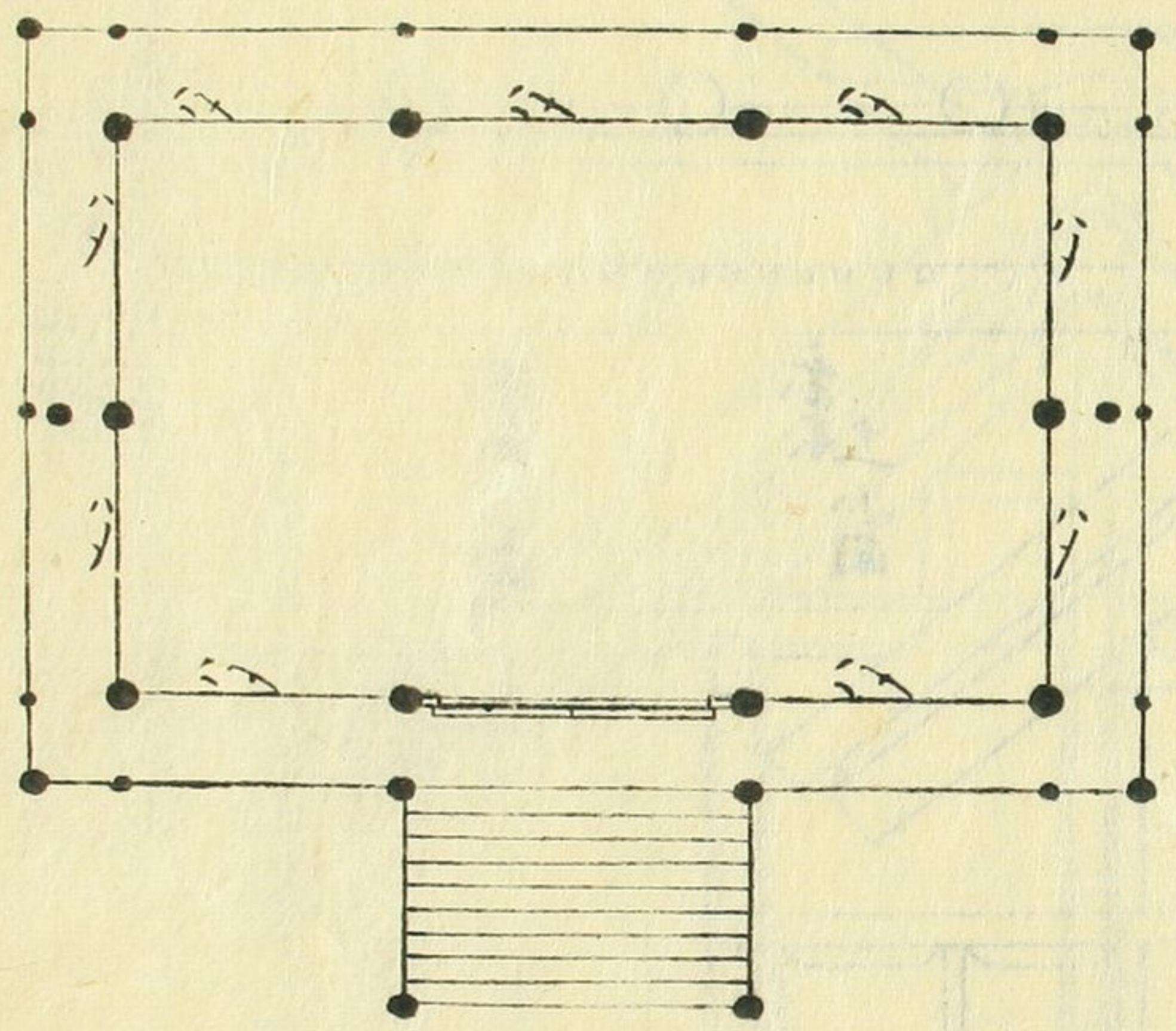
一 ちさいのり 板入のりして

一 和紙のり 板入のりして

一 ちさいのり 板入のりして

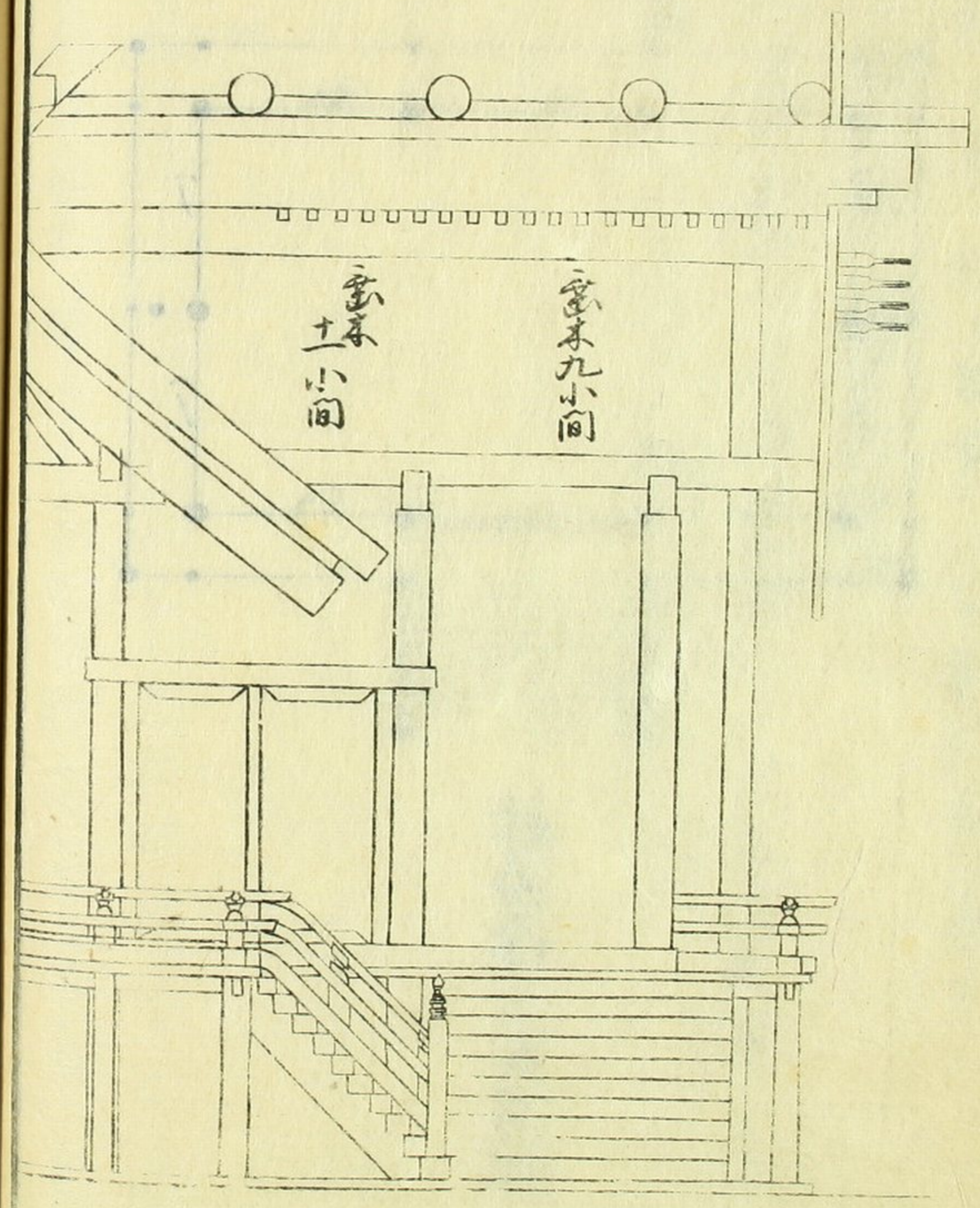
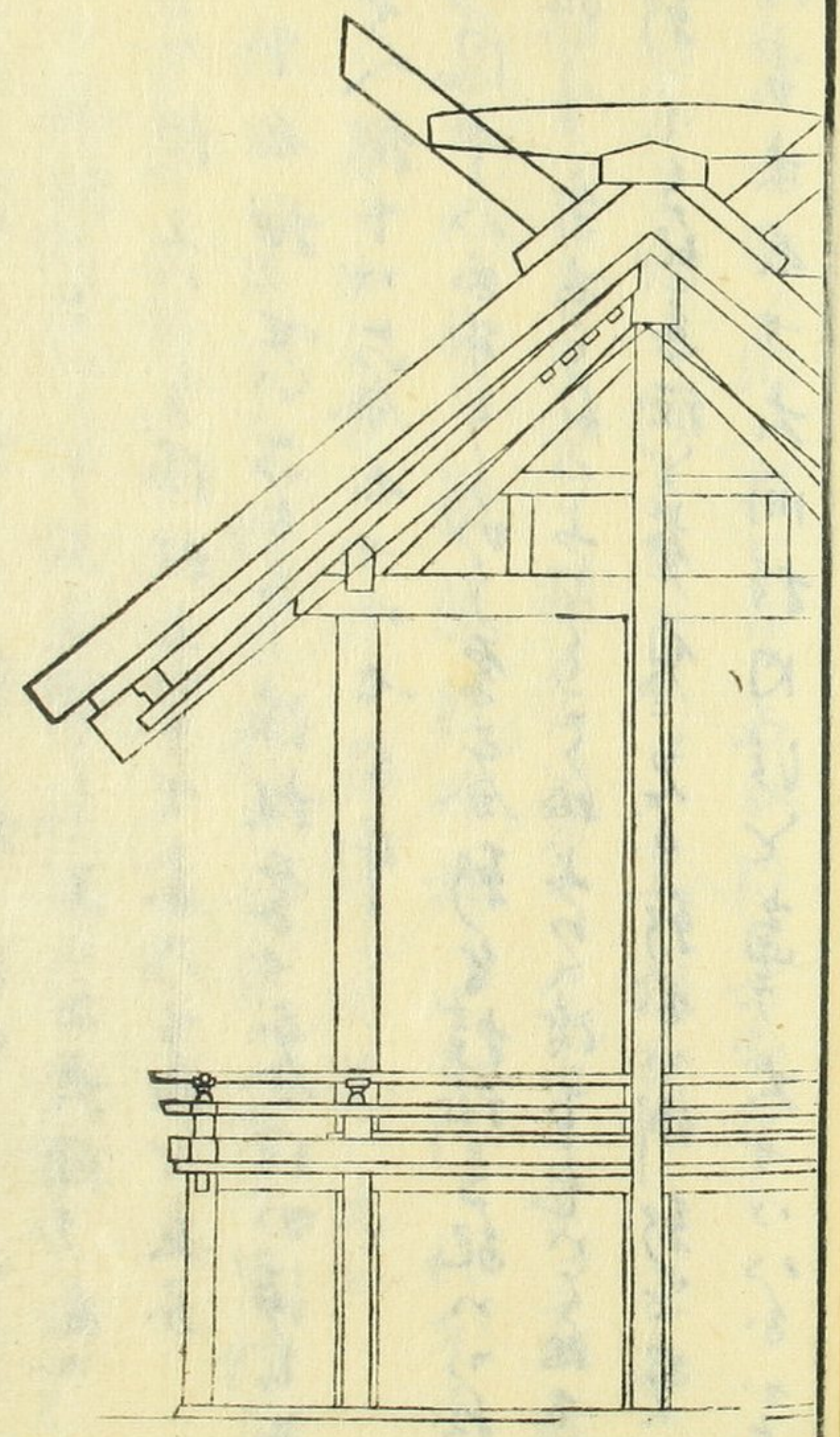


一 三ノ舞 三ノ舞のたのま世の八本割格前々舞  
 一 三ノ舞 三ノ舞のたのま世の八本割格前々舞  
 一 表の舞 小腰舞 舞板のくさるくさる舞  
 一 三ノ舞 三ノ舞のたのま世の八本割格前々舞



神田作の三同社

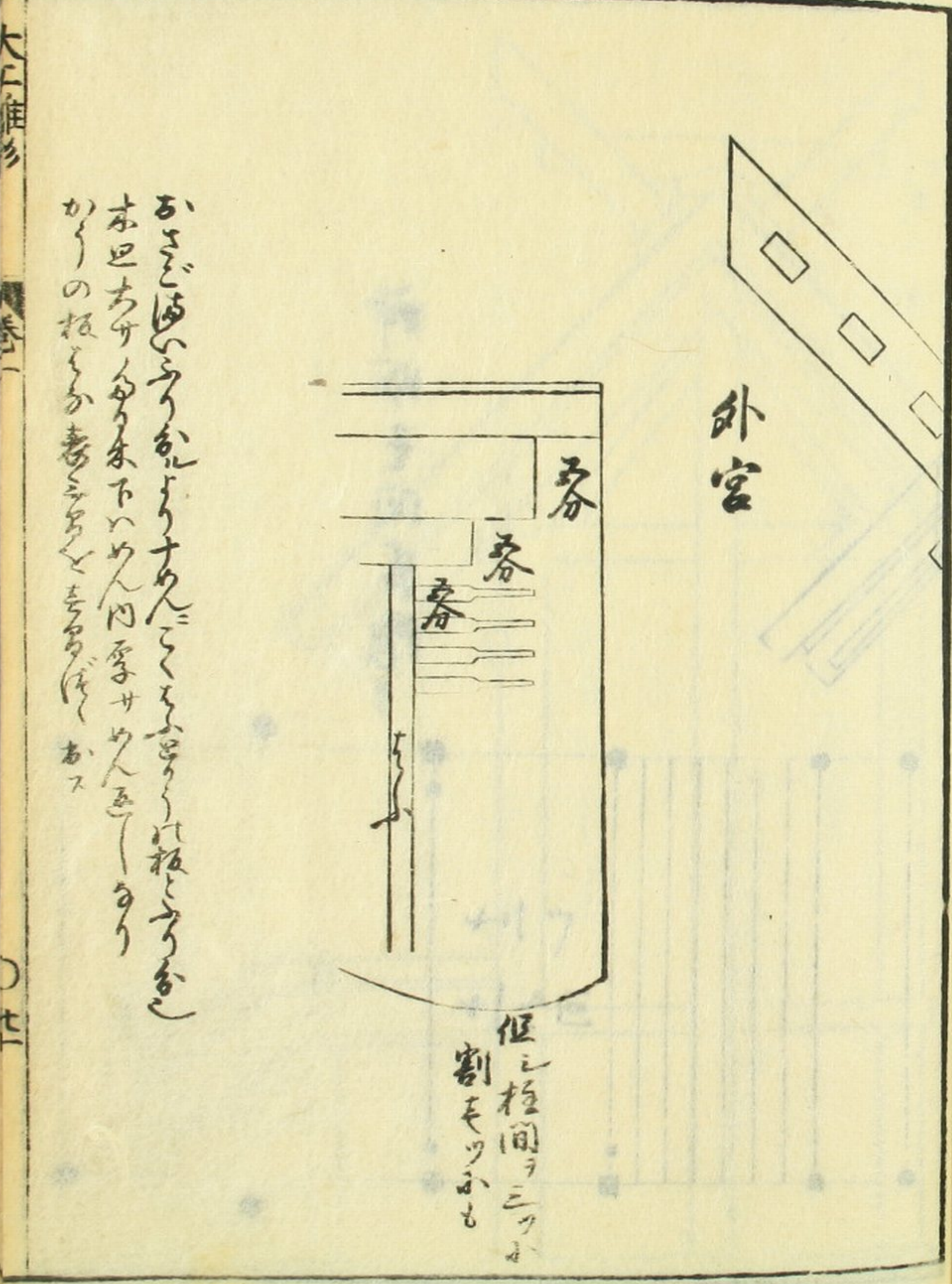
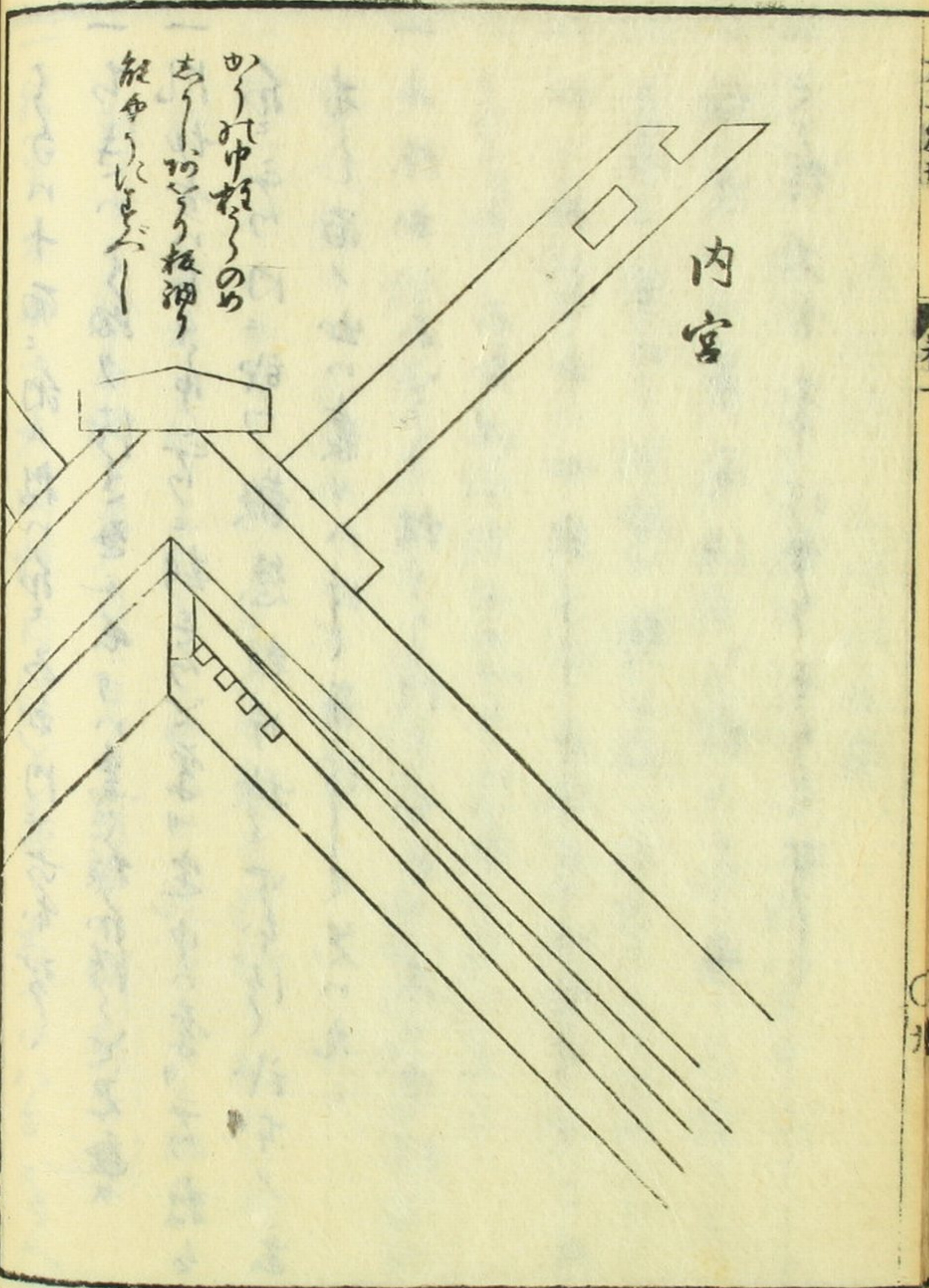






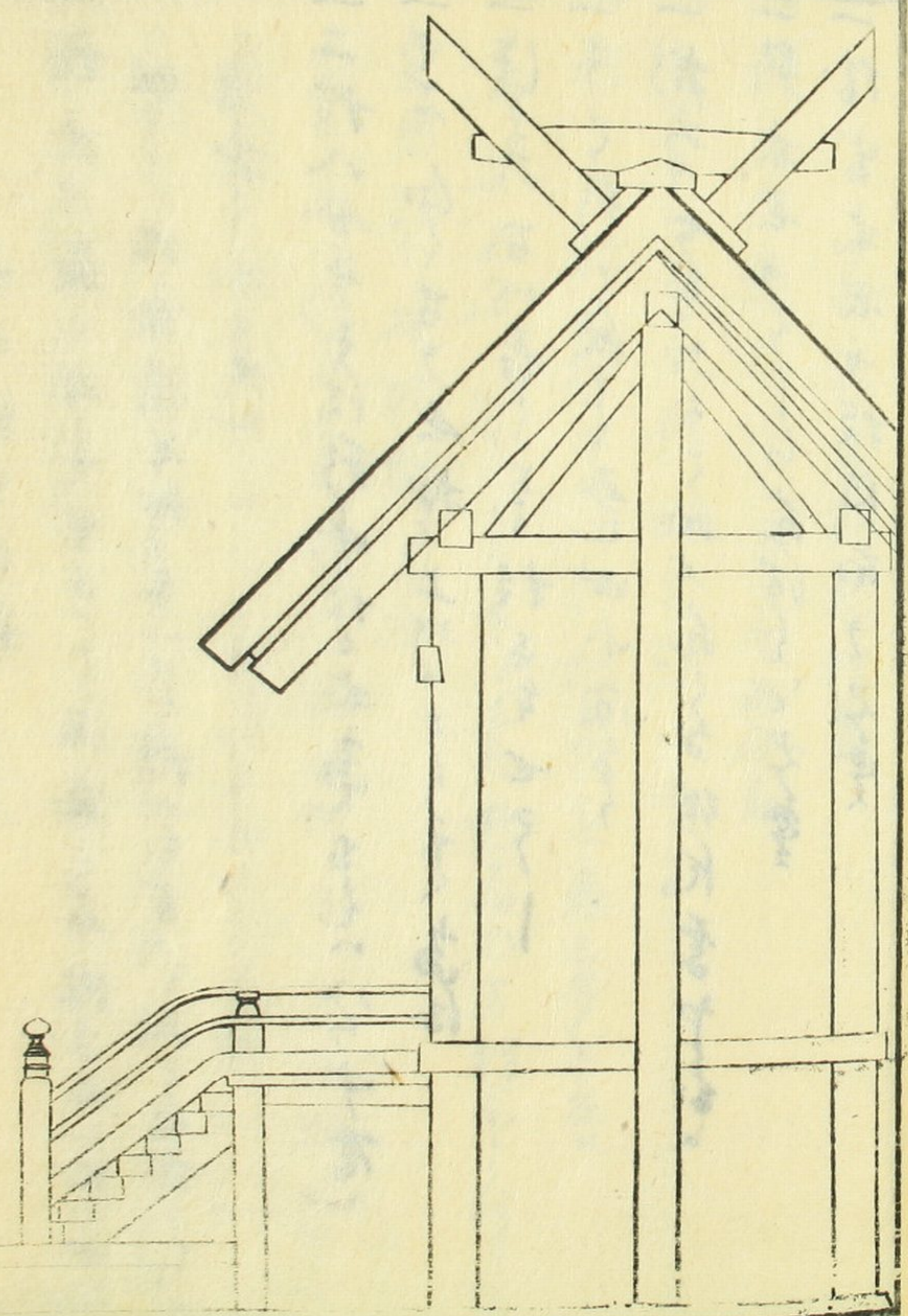




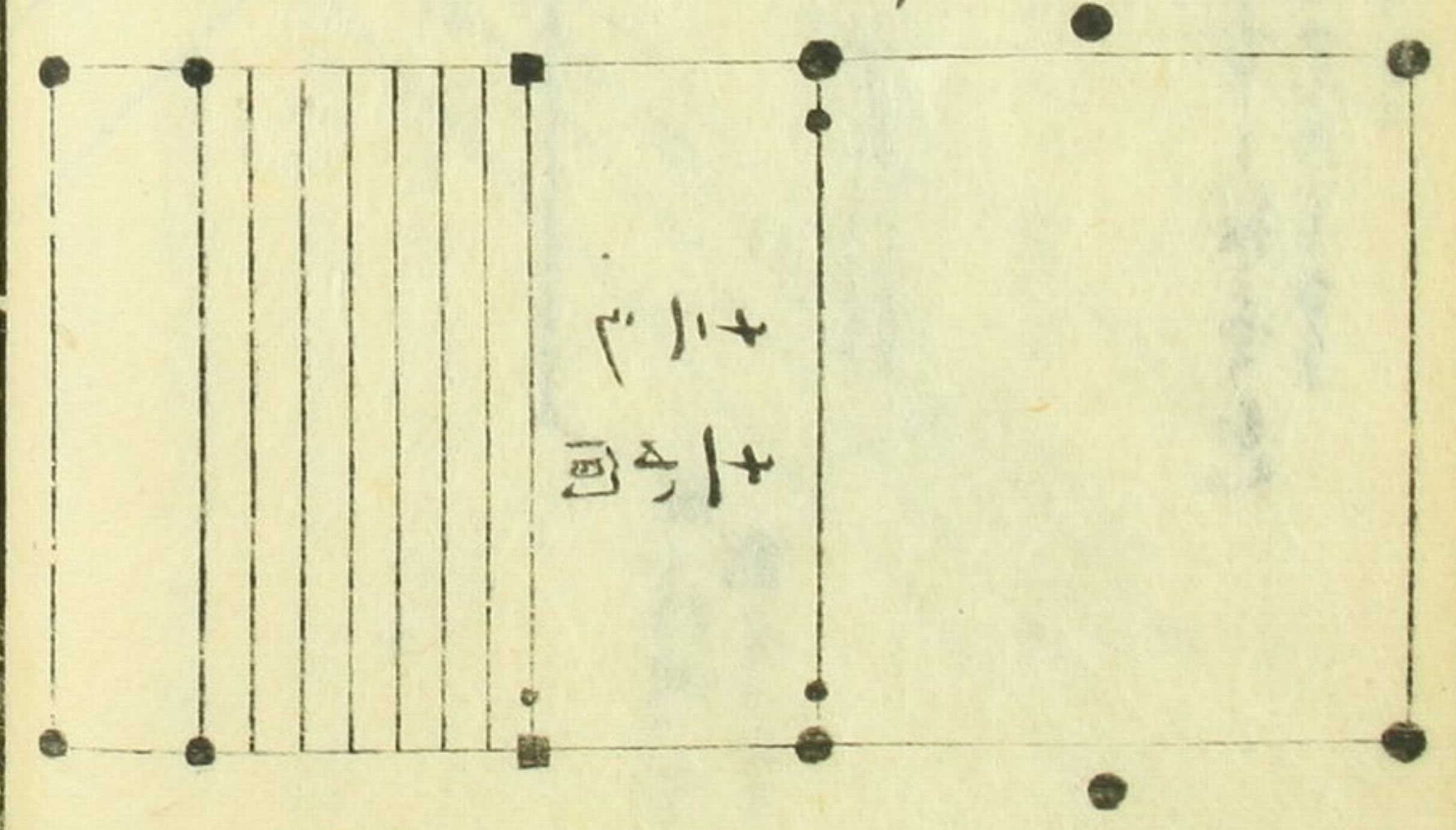


おとどほいよりおしよりすめんごともまきりけ板よりおし  
本旦おしよりおしよりすめんごともまきりけ板よりおし  
かゝの板よりおしよりすめんごともまきりけ板よりおし





神明之間裏作リ



十一  
十一



津の作と間社

一 柱六寸表(間)七寸斗(高)底(高)五寸(高)階(高)三寸(高)出(高)四寸(高)  
但一 大(高)階(高)五寸(高)下(高)中(高)柱(高)五寸(高)又(高)五寸(高)底(高)三寸(高)  
事(高)五寸(高)十一

一 二柱八分斗(高)五寸(高)中(高)柱(高)五寸(高)底(高)五寸(高)出(高)四寸(高)

一 三寸(高)斗(高)五寸(高)中(高)柱(高)五寸(高)底(高)五寸(高)出(高)四寸(高)

一 四寸(高)斗(高)五寸(高)中(高)柱(高)五寸(高)底(高)五寸(高)出(高)四寸(高)

一 五寸(高)斗(高)五寸(高)中(高)柱(高)五寸(高)底(高)五寸(高)出(高)四寸(高)

一 六寸(高)斗(高)五寸(高)中(高)柱(高)五寸(高)底(高)五寸(高)出(高)四寸(高)

一 七寸(高)斗(高)五寸(高)中(高)柱(高)五寸(高)底(高)五寸(高)出(高)四寸(高)

一 八寸(高)斗(高)五寸(高)中(高)柱(高)五寸(高)底(高)五寸(高)出(高)四寸(高)

卯文木割之次第

一 柱六寸表(間)七寸斗(高)底(高)五寸(高)出(高)四寸(高)

一 七寸(高)斗(高)五寸(高)中(高)柱(高)五寸(高)底(高)五寸(高)出(高)四寸(高)

一 八寸(高)斗(高)五寸(高)中(高)柱(高)五寸(高)底(高)五寸(高)出(高)四寸(高)

一 九寸(高)斗(高)五寸(高)中(高)柱(高)五寸(高)底(高)五寸(高)出(高)四寸(高)

一 一丈(高)斗(高)五寸(高)中(高)柱(高)五寸(高)底(高)五寸(高)出(高)四寸(高)

一 一丈二寸(高)斗(高)五寸(高)中(高)柱(高)五寸(高)底(高)五寸(高)出(高)四寸(高)

一 一丈四寸(高)斗(高)五寸(高)中(高)柱(高)五寸(高)底(高)五寸(高)出(高)四寸(高)

一 一丈六寸(高)斗(高)五寸(高)中(高)柱(高)五寸(高)底(高)五寸(高)出(高)四寸(高)

一 一丈八寸(高)斗(高)五寸(高)中(高)柱(高)五寸(高)底(高)五寸(高)出(高)四寸(高)

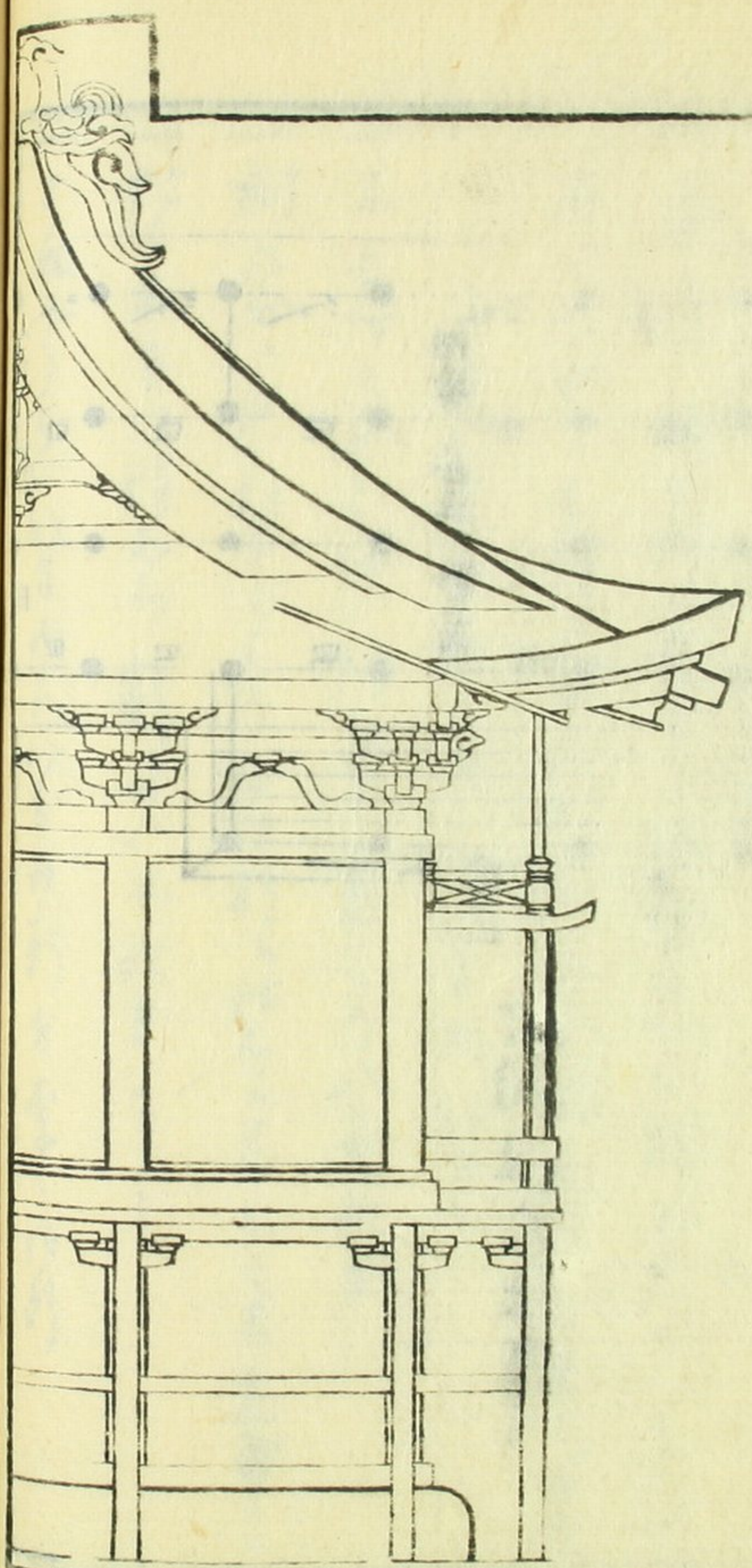
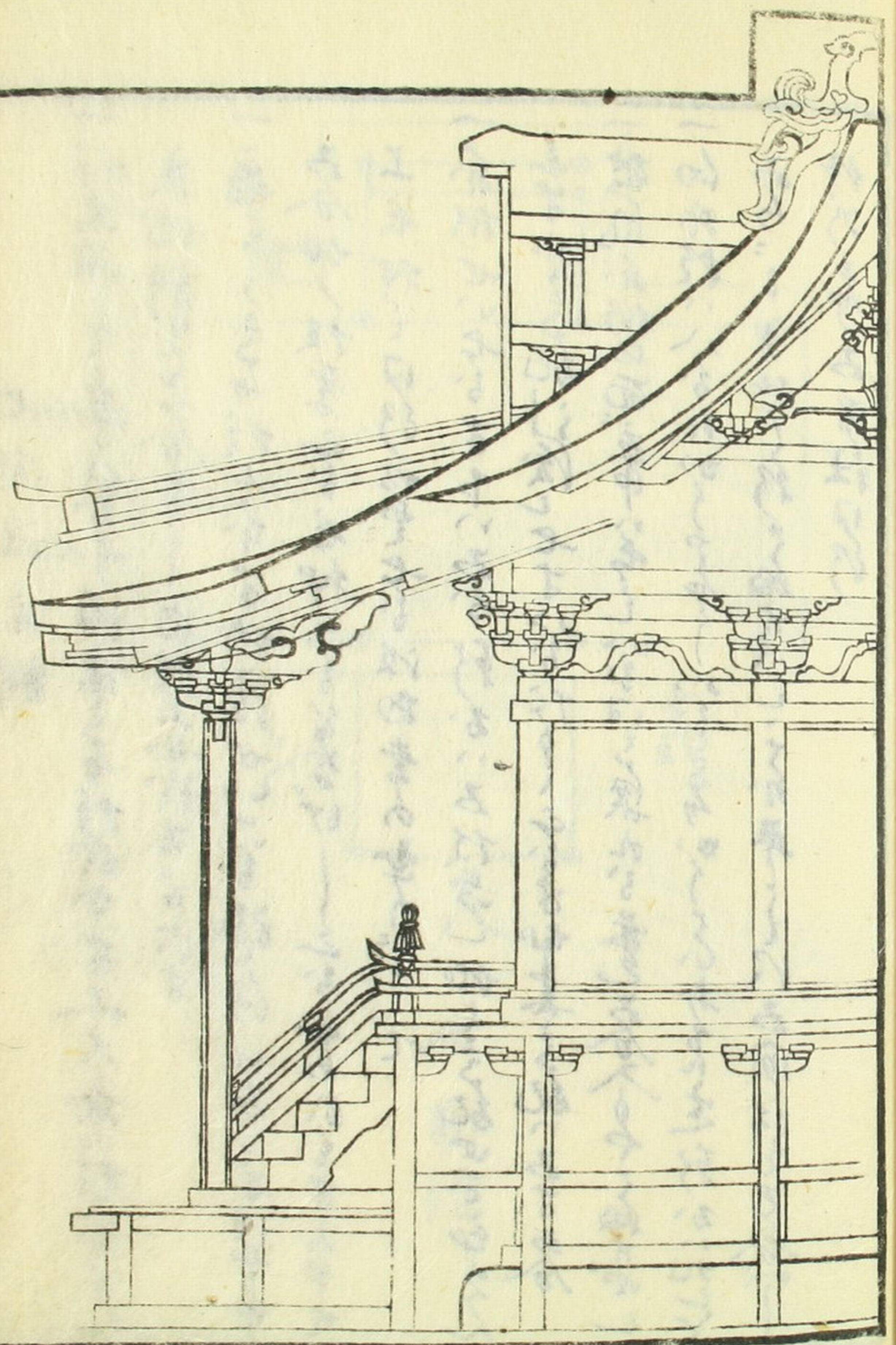
一 二丈(高)斗(高)五寸(高)中(高)柱(高)五寸(高)底(高)五寸(高)出(高)四寸(高)

一 二丈二寸(高)斗(高)五寸(高)中(高)柱(高)五寸(高)底(高)五寸(高)出(高)四寸(高)









七間社大社造





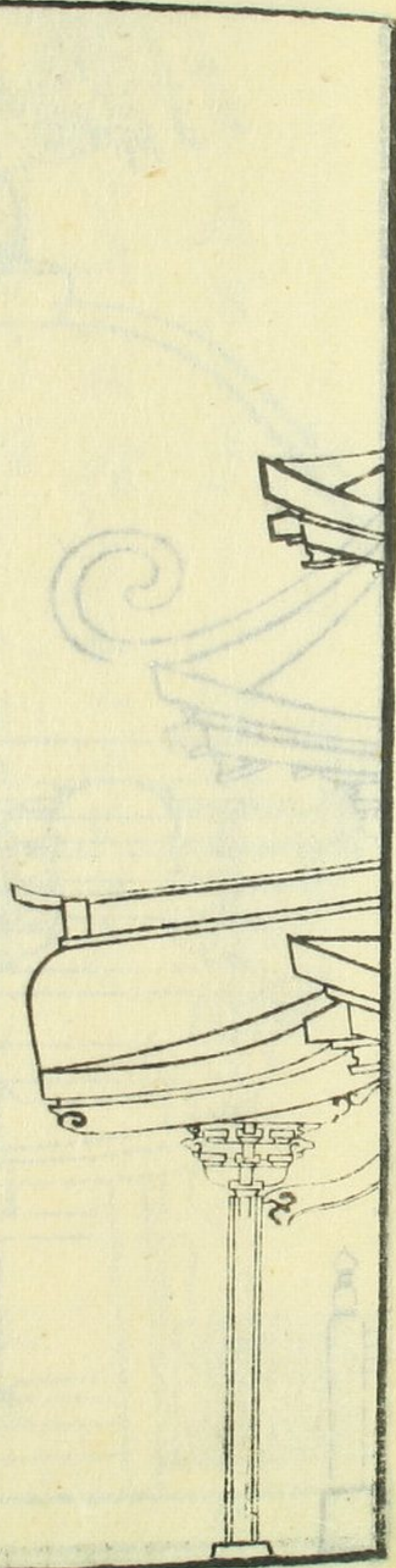
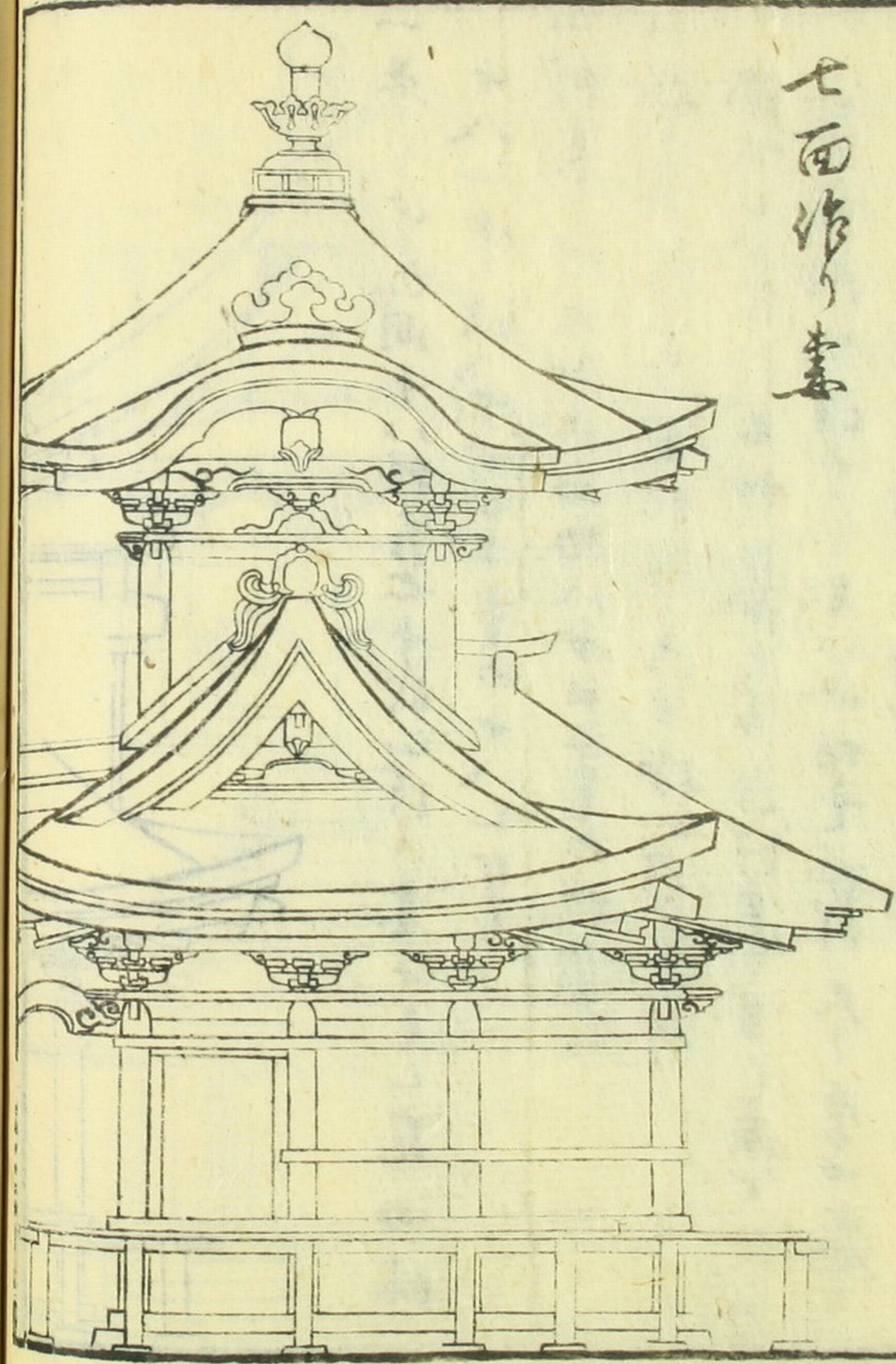






大工雑形 卷一

七面作の妻



一 地へ多り木を配四寸五分をえん二寸五分を取乃  
 四寸五分の引後一六寸五分を素のうごふみす  
 一 腰柱を結やれぬを棟太痛むかへ細  
 一 節屋祇引一六寸五分をえんうくもちわりや  
 一 高二尺

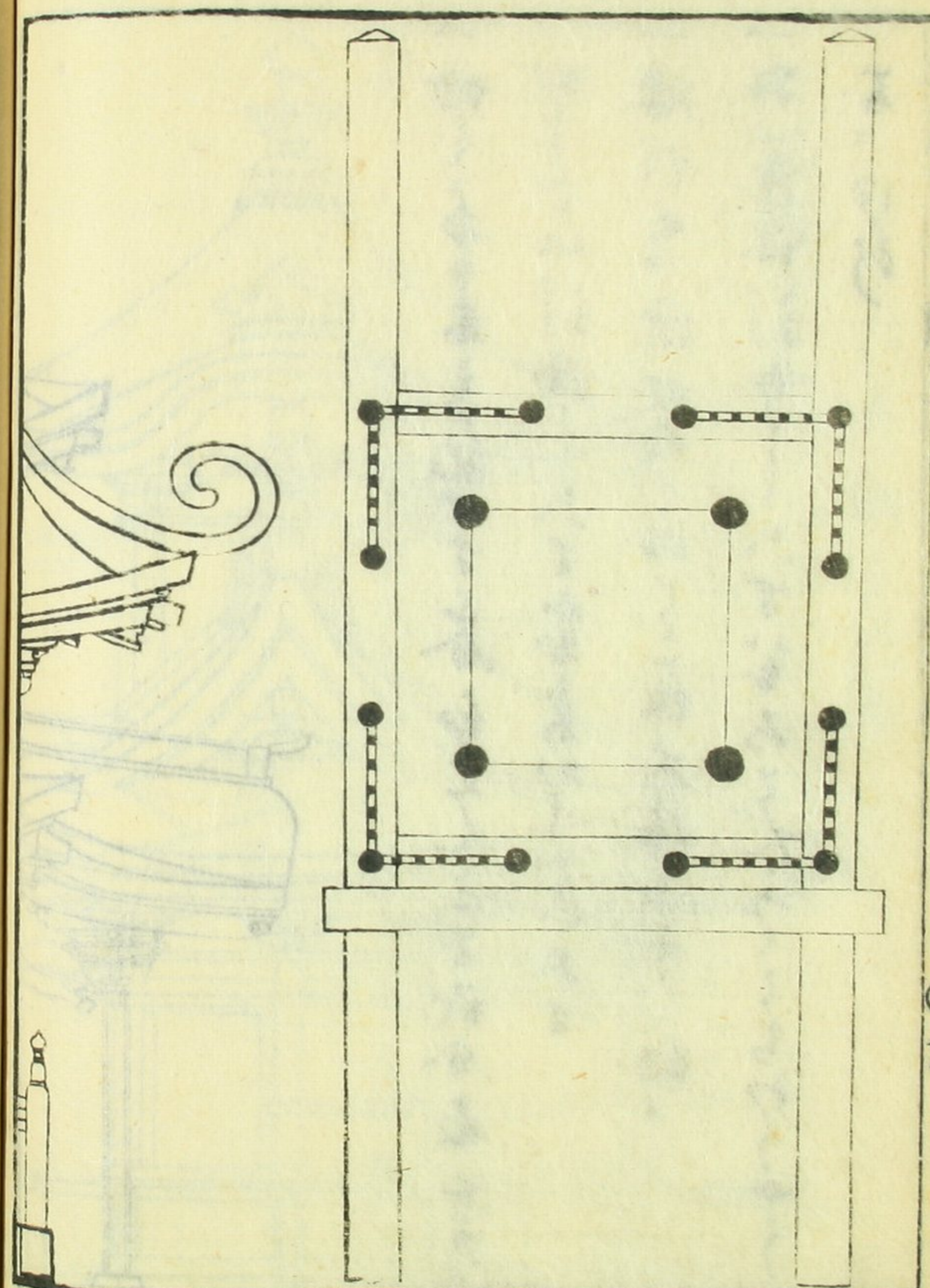
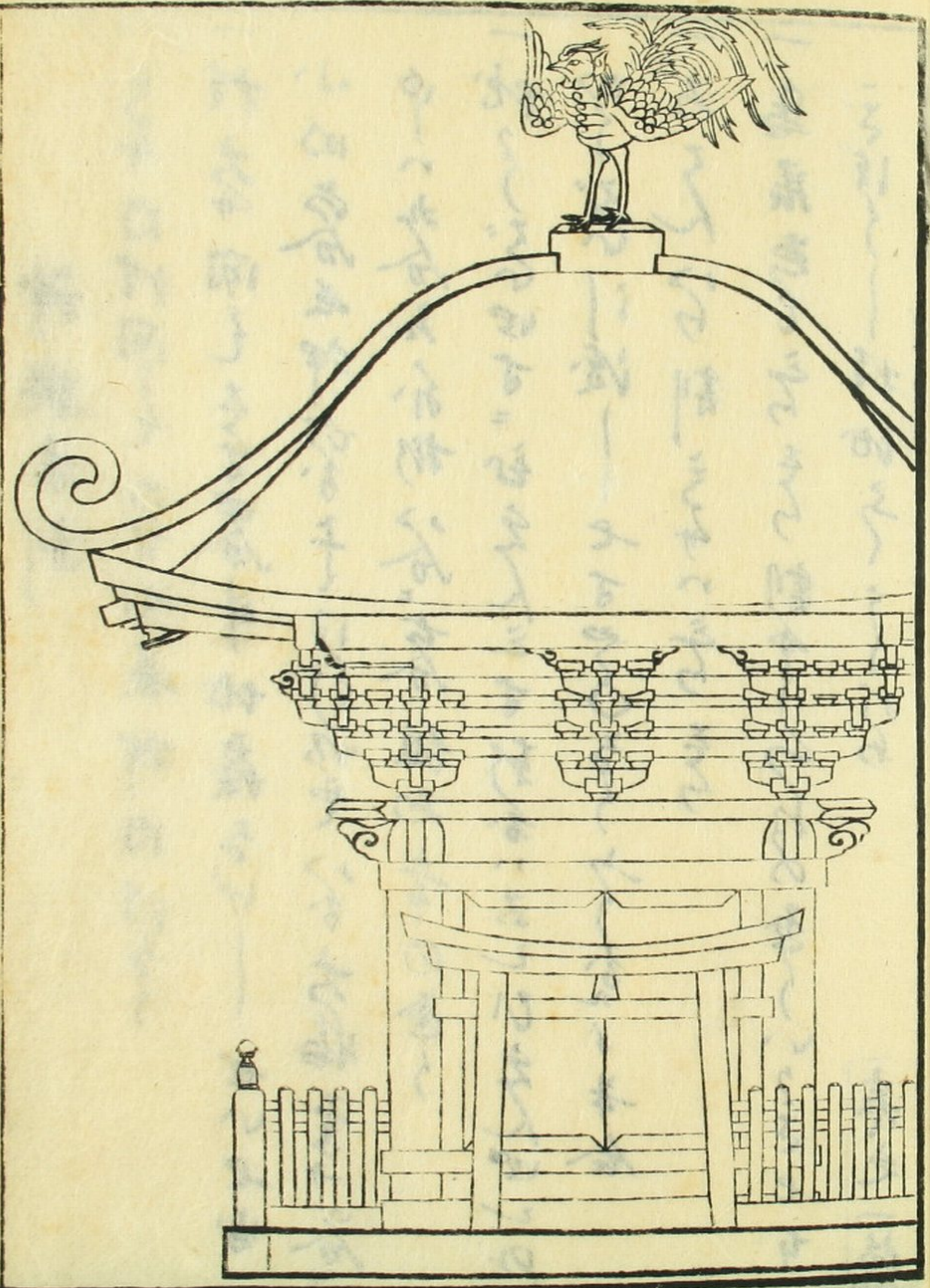
大工雑形 卷一



二維多

卷一

七乙



九州加

雜

七乙



九ノ二ノ...

### 神輿本割

一 三ノ内法同し九ノ長押内法を

一 柱太内同し三ノ界分斗地履をいへ—廿い七出

一 小の分長押亦上は日行取費の分太福厚斗界

一 中ハ九分五斗界の分組也常の意を

一 地ノ高の四寸ニ至らん三寸軒おひ五寸いらん四寸の

一 町ノ高の三寸—七寸也〇さうやうおん〇半合

一 一ノらんハ割三ノハ三ノらん

一 鳥居高三ノらん割中つづねの厚くいくさ七寸  
二ノ高ハ一ノ柱地より一ノらん



